# 第25回 日本訪問歯科医学会

2025.11.2 SUN 10:15～15:20
御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

プログラム・抄録集

## 訪問歯科
## 25年の歩みとこれからの一歩



シンポジウム「これからの訪問診療」

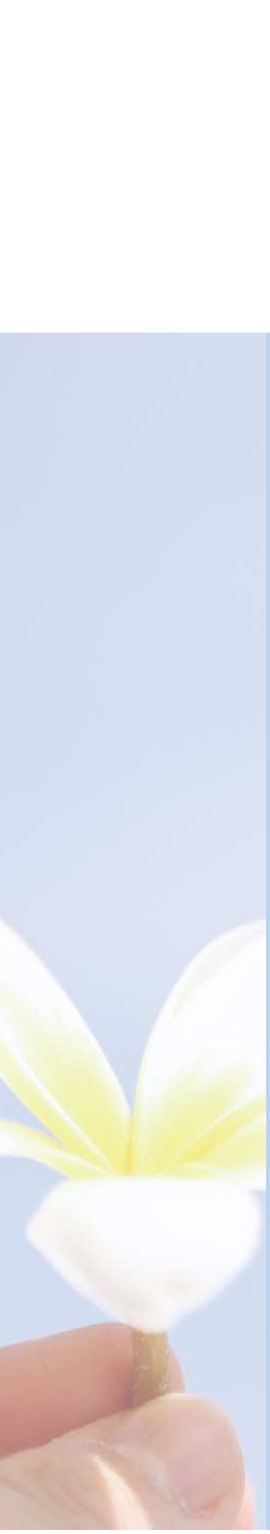
教育講演「口腔機能検査を生かした管理の実際」 | 特別講演「高齢者の味覚障害と訪問歯科」

ランチョンセミナー「超高齢社会におけるS-PRGフィラー含有歯科材料の可能性 ～歯科訪問診療での応用への期待～」

スポンサードセミナー「口腔機能管理の標準化と効率化をサポートするシステムの紹介 ―医療・介護現場における口腔リハビリ支援システム「mogpal(仮称)」―」

会員口演 | ポスター発表 | スマイルフォトコンテスト | 〔同時開催〕専門セミナー

一般社団法人
日本訪問歯科協会



第25回 日本訪問歯科医学会　プログラム・抄録集
訪問歯科 25年の歩みとこれからの一歩

プログラム・抄録集　目次


| | |
|---|---|
| 02 | 日本訪問歯科医学会 学会長 ご挨拶 |
| 03 | 会場案内 |
| 05 | プログラム |
| 07 | 参加者の手引き |
| 11 | シンポジウム「 これからの訪問歯科診療 」 |
| 17 | 教育講演「 口腔機能検査を生かした管理の実際 」 |
| 19 | 特別講演「 高齢者の味覚障害と訪問歯科 」 |
| 21 | ランチョンセミナー「 超高齢社会におけるS-PRGフィラー含有歯科材料の可能性 ～歯科訪問診療での応用への期待～ 」 |
| 23 | スポンサードセミナー「 口腔機能管理の標準化と効率化をサポートするシステムの紹介 ―医療・介護現場における口腔リハビリ支援システム「mogpal（仮称）」― 」 |
| 25 | 会員口演 |
| 28 | ポスター発表 |
| 30 | 専門セミナー |
| 43 | 出展企業・協賛企業一覧 |
| 46 | 協賛企業 商品のご紹介 |


# ご　挨　拶


日本訪問歯科医学会
学会長 野坂 洋一郎




このたび、2025年11月2日（日）に第25回日本訪問歯科医学会を開催させていただくことになりました。開催にあたり、ご支援・ご協力を賜りました皆様、そしてご参加くださる皆様に、心より御礼申し上げます。

今回のメインテーマは、「訪問歯科　25年の歩みとこれからの一歩」です。訪問歯科のこれまでの発展を振り返り、今後のあるべき姿を考える機会になればと考えております。

プログラムとしては、シンポジウムでは、「これからの訪問診療」というテーマで、医療法人永寿会　陵北病院　副院長の阪口英夫先生を座長に、行政・教育・病院・在宅医療、それぞれの立場から講演とディスカッションを行っていただきます。

教育講演として、東京歯科大学 主任教授の上田貴之先生に「口腔機能検査を生かした管理の実際」というテーマでご講演いただきます。

特別講演として、広島大学大学院 客員准教授の堤理恵先生に「高齢者の味覚障害と訪問歯科」についてお話しいただきます。

また、同時開催セミナーとして、訪問歯科に関する全14セッションの専門セミナーを実施いたします。

さらに、各地域で活動している会員の歯科医院による会員口演・ポスター発表も行うなど、充実した内容となっております。

今回の日本訪問歯科医学会が、訪問歯科診療に取り組まれる皆様にとって有意義な学びと交流の場となり、訪問歯科診療のさらなる前進に繋がりますように、皆様のご協力とご参加をよろしくお願い申し上げます。

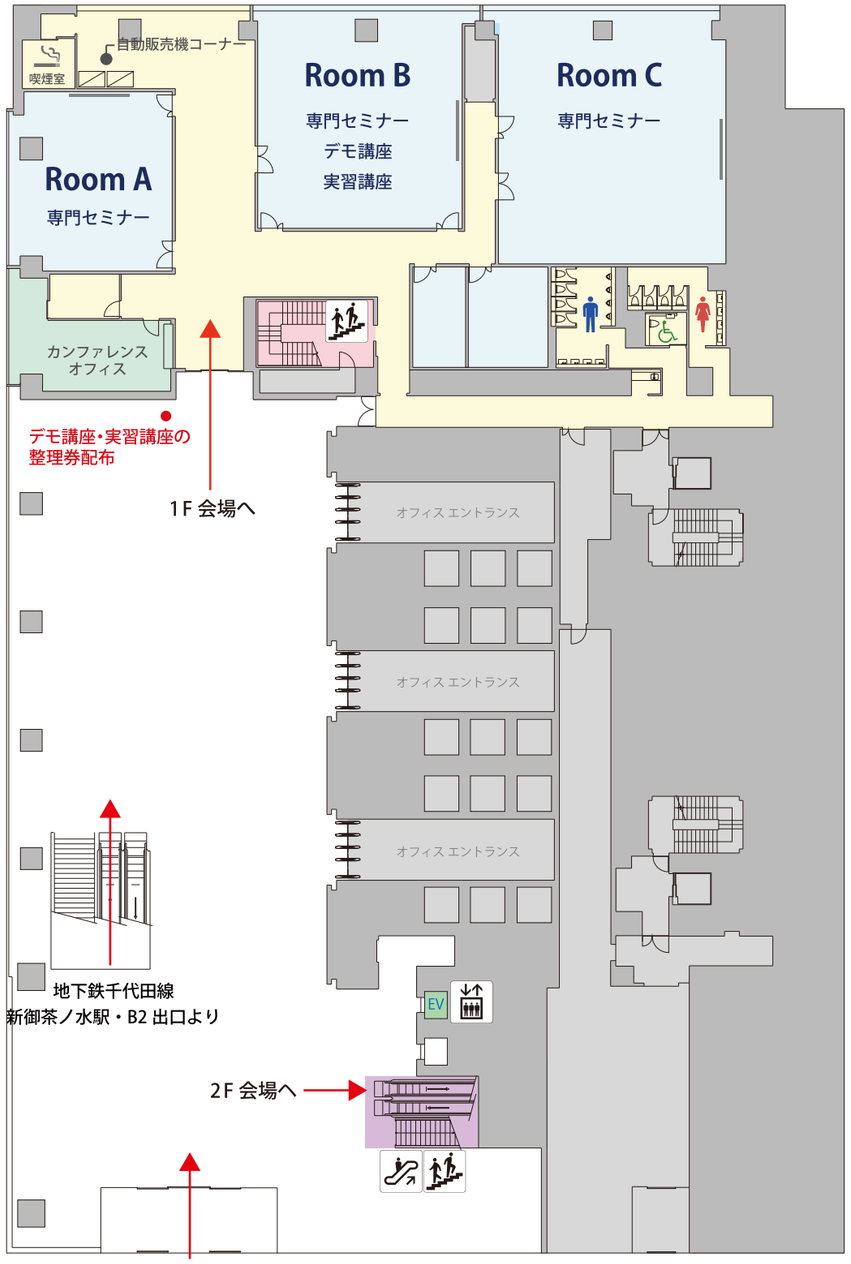
会場案内

## 2F Sola City Hall・Terrace Room




は出展ブースになります。詳細は43,44ページをご覧ください。

## 1F Room A・B・C



# 第25回 日本訪問歯科医学会 プログラム

※ プログラムは変更することもございます。予めご了承ください。

| 11/2（日） | 【2F】ソラシティホール | 【1F】Room A | 【1F】Room B |
|---|---|---|---|
| 8:15 | | | |
| 8:30 | | | 8:30 午前の部 整理券配布<br>（詳細はP10参照） |
| 9:00 | 9:00～9:30<br>第26回日本訪問歯科協会 総会 | | |
| 9:30 | | 9:30～10:15【専門セミナー】<br>45分でわかる!<br>訪問歯科 医療保険のキホン<br>伊藤 友記 氏 | 9:30～10:15【デモ講座】<br>訪問歯科診療とVEの有効性<br>大久保 正彦 氏<br>《定員 40名》 |
| 10:00 | | | |
| 10:30 | 10:15～10:30 開会式<br>10:30～11:50【シンポジウム】<br>これからの訪問診療<br>［座　　長］阪口 英夫 氏<br>［シンポジスト］秋野 憲一 氏<br>古屋 純一 氏<br>野本 亜希子 氏<br>奥 友久 氏 | 10:45～11:30【専門セミナー】<br>45分でわかる!<br>訪問歯科 介護保険のキホン<br>小林 喜明 氏 | 10:45～11:45【実習講座】<br>簡単＆安全!<br>嚥下力を高める表情筋マッサージ<br>平松 満紀美 氏<br>《定員 40名》 |
| 11:00 | | | |
| 11:30 | | | |
| 12:00 | | | 12:00 午後の部 整理券配布<br>（詳細はP10参照） |
| 12:30 | 12:10～12:50【ランチョンセミナー】<br>超高齢社会における<br>S-PRGフィラー含有歯科材料の可能性<br>～歯科訪問診療での応用への期待～<br>猪越正直 氏 | | |
| 13:00 | 13:00～14:00【教育講演】<br>口腔機能検査を生かした管理の実際<br>上田 貴之 氏 | 13:00～13:45【専門セミナー】<br>全身機能の視点からみた口腔の管理<br>森下 元賀 氏 | 13:00～14:00【実習講座】<br>口腔清拭<br>～なぜ、あえてガーゼを使うのか～<br>和田 ひとみ 氏<br>《定員 40名》 |
| 13:30 | | | |
| 14:00 | | | |
| 14:30 | 14:15～15:15【特別講演】<br>高齢者の味覚障害と訪問歯科<br>堤　理恵 氏 | 14:15～15:00【専門セミナー】<br>がん患者の口腔管理と終末期ケア<br>妻木 浩美 氏 | 14:15～15:15【実習講座】<br>開口困難や拒否時に活かせる<br>スポンジブラシ実践<br>齋藤 しのぶ 氏<br>《定員 40名》 |
| 15:00 | | | |
| 15:30 | 15:15～ 表彰・閉会式 | | |

| 11/2（日） | 【1F】Room C | 【2F】テラスルーム | 【2F】展示スペース |
|---|---|---|---|
| 8:15 | | | |
| 8:30 | | 8:15～9:15<br>ウェルカムドリンク提供（100杯分） | |
| 9:00 | | | |
| 9:30 | 9:30～10:15【専門セミナー】<br>口腔粘膜から読み解く患者の変化<br>今井 美季子 氏 | 9:30～10:15【スポンサードセミナー】<br>口腔機能管理の標準化と効率化を<br>サポートするシステムの紹介<br>―医療・介護現場における口腔リハビリ支援システム「mogpal(仮称)」―<br>小原 裕平 氏 | |
| 10:00 | | | |
| 10:30 | | | |
| 11:00 | 10:45～11:30【専門セミナー】<br>吸着義歯でここまでできる!<br>高度吸収顎堤への対応<br>佐藤 勝史 氏 | 10:45～11:30【専門セミナー】<br>訪問歯科診療を進化させる<br>「摂食嚥下を診る力」<br>谷口 裕重 氏 | 企業出展<br>ポスター発表<br>スマイルフォト コンテスト |
| 11:30 | | | |
| 12:00 | | | |
| 12:30 | | | |
| 13:00 | 13:00～13:45【専門セミナー】<br>在宅での栄養支援と食事指導の実際<br>米山 久美子 氏 | 13:00～13:45【専門セミナー】<br>ST視線から考える口腔リハ<br>―症例から学ぶ評価・訓練―<br>吉田 直行 氏 | |
| 13:30 | | | |
| 14:00 | | | 14:00～14:15 ポスター審査<br>14:20 フォト投票締切 |
| 14:30 | 14:15～15:00【専門セミナー】<br>「食べる」ための歯科的アプローチ<br>齋藤 貴之 氏 | 14:15～15:00<br>会員口演 | |
| 15:00 | | | |
| 15:30 | | | |

参加者の手引き

## ■ 入場証について

**● 受付での提示**

受付は2階にあります。受付でQRコードをリーダーで読み取り、事前に参加登録いただいた情報と照合します。
確認が取れましたら、入場証とホルダーをお渡しいたします。入場証がないと会場に入れませんので、会期中は常に身に着けてください。入場証を入れるホルダーは返却不要です。終了後はお持ち帰りください。

**● 展示ブースでの提示**

各展示ブースのスキャナに入場証のQRコードを読み込ませると、後日、その企業から製品の案内を受け取ることができます。
そのため、QRコードを読み込ませた展示ブースの企業には、医学会お申込時の登録情報（氏名、医院名、郵便番号、住所、職種名、TEL番号、Emailアドレス）が当該出展者に提供されますので、予めご了承ください。

**● 2階 RoomＢ デモ・実習講座 会場入口での提示（特別パスをお持ちの方のみ）**

RoomＢでは、デモ・実習講座を開催します。特別パスをお持ちの方用の席をご用意いたしております。
特別パスをお持ちかどうかを確認しますので、会場入口で入場証をご提示ください。。

## ■ クロークについて

クロークは2階にあります。大きな荷物は会場内に置けませんので、クロークへお預けください。
なお、貴重品はお預かりできませんので、予めご了承ください。

## ■ コーヒーサービスについて　※ コーヒーとお菓子の数には限りがありますので、ご了承ください

2階のテラスルームでは、8時15分から9時15分まで、温かいコーヒーとお菓子を用意しております。
受付の混雑を避けるためにお早めにご来場くださった方は、受付手続き後にお召し上がりください。当サービスはセルフサービスです。コーヒーをお召し上がりの際は、テラスルーム内の席または、2階通路のソファー等をご利用ください。

## ■ スライド集の販売について

購入をご希望の場合は、2階受付横のコンシェルジュデスクにお声がけください。お支払方法は、クレジットカード（Visa、Mastercard、American Express、Diners、JCB、Discover）やQRコード決済（楽天ペイ、d払い、au PAY、メルペイ、LINE Payなど）がご利用いただけます。

● メインプログラム分：7,800円（税込）　● 専門セミナー分：9,800円（税込）

## ■ 避難経路について

P3～4の会場案内をご確認ください。

## ■ 快適な環境のために

- 会場内の撮影、録音は固くお断りいたします。
- 携帯電話はマナーモードか電源をお切りください。
- 講演中のパソコンの操作はご遠慮ください。
  キーボードの音が気になる方がいらっしゃいます。
- 講演・講義中の私語はご遠慮ください。
- ごみは会場内の所定のゴミ箱にお入れください。
- 館内は禁煙です。所定の喫煙所をご利用ください。

## ■ 受講に際して

**● メイン会場（2階 ソラシティホール）**

〔 開　場 〕
9時30分からご入場いただけます。9時30分までは、日本訪問歯科協会の総会が行われています。
そのため、医学会の開場時間までは正会員以外はご入場いただけませんので、予めご了承ください。

〔 座　席 〕
前方に認定医、認定歯科衛生士用の席をご用意いたしております。
前方の席にはテーブルを設置しており、後方は椅子だけの席になっています。

〔 講師への質問 〕
座長から指名された方は、会場内のスタンドマイクの位置でご発言ください。

**● 専門セミナー会場（1階 RoomＡ、Ｂ、Ｃ / 2階 テラスルーム）**

〔 開　場 〕
各セミナーの開場時刻は、セミナー開始時刻の10分前です。

〔 座　席 〕
安全管理のため、各セミナー会場とも定員に達し次第、入場を制限させていただきます。ご了承ください。

〔 講師への質問 〕
ご質問のある方は挙手をお願いいたします。
講師または司会者から指名されましたらご発言ください。会場によってはマイクをお渡しいたします。

## ■ お弁当について

**● お渡し**

12時から、2階のメイン会場（ソラシティホール）入口の受付とクローク前でお弁当とお茶をお渡しいたします。
お弁当を希望されると事前連絡をされた方のみお受け取りください。

**● お弁当を召し上がる場所**

ランチョンセミナーの会場（ソラシティホール）でお召し上がりください。
ロビーでのお食事は通行の妨げとなりますのでご遠慮ください。

**● 食べ終わった容器**

お手数をおかけしますが、設置してあるお弁当箱専用の返却箱にお入れください。

## ■ アンケートについて

医学会終了後に、アンケートにお答えください。
このアンケートをもって参加の証となり、研修ポイントが付与されます。
アンケート用のQRコードは、医学会当日、メイン会場の最終講演の後にスクリーンに表示されます。

## ■ その他

**● インターネット環境について**

各会場にWi-Fiが設置されています。接続先とパスワードは以下のとおりです。

| | 会　場 | 接続先 |
|---|---|---|
| 2階 | Hall WEST | SCCC_Hall_West |
| | Hall EAST | SCCC_Hall_East |
| | Terrace Room | SCCC_TerraceRoom |
| 1階 | Room A | SCCC_RoomA |
| | Room B | SCCC_RoomB |
| | Room C | SCCC_RoomC |
| 全会場共通パスワード | solacity01（ゼロ・イチ）※すべて小文字 | |

**● 記録について**

主催者が記録した医学会、専門セミナーの映像、写真、記事などの記録は主催者に帰属します。この記録のメディアへの掲載権は主催者が有します。写真・映像掲載などに問題がある場合はスタッフにお申し出ください。

**● 館内施設について**

館内にはお手洗いのほか、自動販売機、喫煙所がございます。場所はP3～4の会場内案内でご確認ください。

**● インスタスポットについて**

1階エスカレーター近くに、日本訪問歯科医学会のご参加の記念撮影用のインスタスポットをご用意しております。

**● 駐車場について**

有料駐車場が地下2階にあります。お支払い方法は現金のみで、クレジットカードはご利用いただけません。
また、当医学会の利用者割引はありませんので、予めご了承ください。

**● 近隣情報**

コンビニエンスストアは地下1階にあります。1階からの下りエスカレーターをご利用ください。

**● アーカイブの視聴について**

公開期間は11月20日（木）12:00～12月17日（水）12:00です。視聴ページの情報は、11月19日（水）にメールでご案内いたします。医学会のすべての講座をご視聴いただけますが、内容の大幅なカットや編集がおこなわれる可能性がありますので、予めご了承ください。

**《 2026年11月1日（日）開催 第26回日本訪問歯科医学会 》**

第26回日本訪問歯科医学会は、2026年11月1日（日）に開催予定です。
会場は、今回と同じく、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターです。
詳細は決まり次第、日本訪問歯科協会のウェブサイト等でご案内いたします。
ぜひご予定にお加えくださいますようお願いいたします。

# デモ講座・実習講座の整理券配布について

《無料・当日先着順》

デモ・実習講座は全て整理券制です。次の時間から先着順で配布します。

## ■ 整理券配布

**◉ 午前の部（2講座）**

〔配布場所〕1F エントランス前（詳細はP3～4参照）

〔配布開始〕8:30

① デモ講座 訪問歯科診療とVEの有効性（講座開催時間 9:30～10:15）
② 実習講座 簡単＆安全！嚥下力を高める表情筋マッサージ（講座開催時間 10:45～11:45）

**◉ 午後の部（2講座）**

〔配布場所〕1F エントランス前（詳細はP3～4参照）

〔配布開始〕12:00

③ 実習講座 口腔清拭 ～なぜ、あえてガーゼを使うのか～（講座開催時間 13:00～14:00）
④ 実習講座 開口困難や拒否時に活かせるスポンジブラシ実践（講座開催時間 14:15～15:15）

## ■ 注意事項

- 整理券は、学会受付で入場手続きを済ませた方のみに配布します。
  必ず2階受付で入場手続きを済ませ、入場証を身に着けた状態で配布場所へお越しください。
- 整理券は午前・午後それぞれで、お1人様1枚まで配布いたします。
- 定員に達し次第、配布終了となります。
- 会場や配布場所付近での長時間待機・列形成はご遠慮ください。

**※ 特別パスをお持ちの方は整理券不要です。入室時に入場証をご提示ください。**

〔 10:30－11:50 ● 2F ソラシティホール 〕

# シンポジウム

# これからの訪問診療

〔 座　　長 〕

阪口 英夫 氏 | 医療法人 永寿会　陵北病院　副院長

〔 シンポジスト 〕

秋野 憲一 氏 | 札幌市保健福祉局 歯科保健担当部長

古屋 純一 氏 | 昭和医科大学大学院 口腔機能管理学分野 教授

野本 亜希子 氏 | 浜松市リハビリテーション病院 歯科 医長

奥　友久 氏 | おく内科・在宅クリニック 院長







座 長

## 阪口 英夫 氏 | 医療法人 永寿会　陵北病院　副院長

## 「これからの訪問診療」

現代社会は急速に高齢化が進み、在宅医療・看護の重要性がかつてないほど高まっています。とりわけ歯科医療分野においては、従来の診療所中心の体制から、患者の生活の場である自宅や施設に出向く「訪問診療」への転換が求められ、広く実施されてきました。わが国で最も高齢者の数が増えるとされる2040年に向けて、今後ますます訪問診療のニーズは高まるものと思います。

今回のシンポジウムでは制度設計など、行政の立場から秋野憲一先生（札幌市保健福祉局ウェルネス推進部）、歯科医師教育の立場から古屋純一先生（昭和医科大学教授）、病院歯科の立場から野本亜希子先生（浜松市リハビリテーション病院歯科）、在宅医療を担う医師の立場から奥知久先生（おく内科・在宅クリニック）の4名の先生方からお話を伺い、今後歯科に求められる訪問診療の在り方を討論できればと思います。ぜひ多くの方々にご参加頂ければ幸いです。

プロフィール

〔 学　　歴 〕
1989年　東北歯科大学（現奥羽大学）歯学部 卒業
2014年　東京医科歯科大学（現東京科学大学）医歯学総合研究科 卒業
歯学博士

〔 職　　歴 〕
1992年　医療法人尚寿会 大生病院 歯科 勤務
2014年　医療法人永寿会 陵北病院 歯科診療部 歯科診療部長
2018年　医療法人永寿会 陵北病院 副院長

〔 教 育 歴 〕
1999年　東京医科歯科大学歯学部 高齢者歯科学講座 非常勤講師（兼務）
2005年　明海大学 歯学部 社会健康科学講座 口腔衛生分野 講師（兼務）
2006年　奥羽大学 歯学部 高齢者歯科学講座 講師（兼務）
2025年　九州歯科大学 歯学部 分子情報生化学分野 講師（兼務）

〔 役　　職 〕
- 日本老年歯科医学会 理事
- 日本病院歯科口腔外科連絡協議会 幹事
- 日本口腔ケア学会 評議員
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会評議員
- 社会歯科学会 評議員

- 厚生労働省医政局 歯科衛生士の業務のあり方等に関する検討会 構成員
- 日本歯科医学会「口腔ケアに関する検討委員会」委員
- 日本老年歯科医学会 社会保険委員会　委員長
- 日本老年歯科医学会 歯科衛生士関連委員会委員
- 日本慢性期リハビリテーション協会 摂食嚥下委員会 委員長

〔 資　　格 〕
- 日本老年歯科医学会 専門医 指導医
- 日本口腔ケア学会 指導者

〔 主な著書 〕
『要介護高齢者の口腔病変アトラス』ヒョウロン・パブリッシャーズ,2023年（単著）
『はじめて学ぶ非経口摂取患者の口腔衛生管理』医歯薬出版株式会社,2021年（共著）
その他



シンポジスト

## 秋野 憲一 氏 ｜ 札幌市保健福祉局 歯科保健担当部長

# 「2040年を見据えた在宅歯科医療の諸課題」

日本は既に人口減少社会に転じているが、高齢化率は今後も上昇が続くことが予測されている。政府の予測は外れるものも多いが、残念ながら、この人口推計だけは、ほぼ正確に予測が的中しており、歯科に限らず、全ての医療従事者が、高齢者医療に関わらざるを得ない状況が今後も続く。

年齢階級別受療率によると、医科では60代から受療率が大幅に増加、80歳前後から外来は減少に転ずるが、病院の受療率はさらに増加し、高齢者の医科の受療率は総じて高い。一方で歯科外来の高齢者の受療率は、大きな増加を見せることなく、75歳以降はさらに減少していく。

高齢者の歯と口腔が健康になることにより、受療率が減少しているのであれば、喜ぶべきことであるが、実際の高齢者は、唾液の分泌が減少し、自浄作用が減り、むし歯や歯周病は増悪しやすく、口腔機能も低下し、誤嚥性肺炎のリスクも高く、口腔管理の重要性は増加し、歯科医療の必要性はむしろ高まっている。しかし、実際は、多くの調査結果において、歯科治療を受けている要介護高齢者は1割以下であり、歯科医療が十分に届けられているとはいえない状況がみられる。これらは、現状の在宅歯科医療のシステムに改善すべき点が多くあることの証左であり、要介護高齢者の診療に強い歯科医師の育成や介護と歯科医療との連携体制など、高齢者の歯科医療提供体制の充実は、今後も優先的な政策課題である。

さらなる在宅歯科医療の充実に向けては、既に医科において導入されているが、都道府県が在宅医療に積極的な役割を担う医療機関や在宅医療に必要な連携を担う拠点を指定する制度の歯科版の導入の他、介護保険事業所においても、従来の歯科治療に加えて、事業所全体の口腔衛生管理への関与や摂食嚥下に対する支援に歯科医師がより積極的に関われる仕組みが望まれる。

報告では、これらの諸課題と2040年を見据えた対応策について報告したい。

**プロフィール**

〔 略　歴 〕

1998年　北海道大学歯学部卒
1998年　北海道大学歯学部付属病院
1999年　北海道渡島保健所
2000年　国立公衆衛生院専門課程分割前期課程修了
2003年　北海道保健福祉部地域保健課 主任技師
2010年　北海道保健福祉部高齢者保健福祉課 主任技師
2015年　厚生労働省老健局老人保健課 医療介護連携技術推進官
2016年　厚生労働省医政局歯科保健課歯科口腔保健推進室 室長補佐 兼任
2016年　厚生労働省老健局診療報酬介護報酬同時改定準備室 兼任
2017年　札幌市保健福祉局保健所 母子保健・歯科保健担当部長
2021年　札幌市保健福祉局コロナ対策室　宿泊療養・在宅医療担当部長 兼任
2024年　札幌市保健福祉局 歯科保健担当部長

〔 主な役職 〕

- 厚生労働省 都道府県及び市町村における歯科保健業務指針改定委員
- 厚生労働省 保健事業と介護予防の一体的実施実務者検討会構成員
- 日本歯科医師会 オーラルフレイル対策マニュアル作成委員
- 社会歯科学会 常任理事
- 日本老年歯科医学会 社会保険委員会委員
- 日本口腔衛生学会 代議員
- 日本HIV歯科医療研究会 理事
- 北海道口腔保健学会 幹事





シンポジスト

## 古屋 純一 氏 ｜ 昭和医科大学大学院 口腔機能管理学分野 教授

# 「義歯と嚥下から考える高齢期の食支援」

食べるという行為は、生命維持のための栄養摂取という側面と、生活における楽しみという側面がある。生物としてヒトを捉えたとき、発達の過程で獲得した咀嚼して嚥下する機能が、老化していくのはある意味自然なことと言える。しかし、咀嚼と嚥下は一連の運動であり、咀嚼しただけで嚥下しなければ、ヒトはおいしさを感じることはできない。同じように、丸飲みばかりではつまらなくなってしまうように、ヒトはつくられている。咀嚼・嚥下は、生命維持のために必要ないわゆる報酬系の神経回路であり、だからこそ、楽しく食べて楽しく生きたいのであるが、それができなくなるのが、訪問診療が必要な要介護高齢者である。

そのため、訪問診療においては、食べる機能に対するリハビリテーションが重要となる。しかし、高齢期においては、疾病などの理由によって、食べるために必要な口腔機能に対する訓練効果が限定的であることも少なくない。そのため、その人その人によって異なる食習慣や食行動を支えるというアプローチが必要となる。もちろん、歯科だけでできることでもないため、歯科治療という手段を使って、他の職種と連携・協働しながら、高齢期の食を支援していくのである。特に、訪問診療で行う歯科治療は、義歯治療であることが多い。義歯治療の最大の特徴は、機能訓練と違って時にダイナミックにその人の口腔機能を支援することができるという点である。

一方、訪問診療が必要な高齢者は最初から要介護であったわけではない。すなわち、訪問診療と外来診療は一続きであり、多くの場合、その間に入院というイベントがある。高齢期の歯科治療や食支援を考えた場合、外来から病院、病院から訪問へと続く一連の流れの中で口腔機能を管理する必要がある。本講演では、これらを踏まえた上で、わが国における訪問診療の課題と未来ついて、皆さんと一緒に考えてみたい。

**プロフィール**

〔 略　歴 〕

1996年　東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
2000年　東京医科歯科大学大学院歯学研究科高齢者歯科学修了（歯学博士）
2005年　岩手医科大学歯学部歯科補綴学第一講座
2013年　ハーバード大学歯学部留学
2015年　東京医科歯科大学大学院地域・福祉口腔機能管理学分野
2020年　昭和大学歯学部高齢者歯科学講座
2023年　昭和医科大学歯学部口腔健康管理学講座口腔機能管理学部門（名称変更）主任教授

〔 主な役職 〕

- 日本老年歯科医学会 認定医・専門医・指導医・摂食機能療法専門歯科医師・理事
- 日本補綴歯科学会 専門医・指導医・代議員
- 日本栄養治療学会 代議員
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士・評議員



シンポジスト

## 野本 亜希子 氏 ｜ 浜松市リハビリテーション病院 歯科 医長

# 「回復期から地域へ：病院歯科から口腔管理のバトンをつなぐ」

2024年度の診療報酬改定では、リハビリテーション・栄養管理・口腔管理の連携を評価する複数の加算や点数が新設された。歯科領域では，回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期）入院患者の口腔機能管理の実施に対し、「回復期等口腔機能管理計画策定料（300点）」「回復期等口腔機能管理料（200点）」「回復期等口腔衛生処置（100点）」が新設された。これらの点数は、回復期に訪問診療を行う歯科診療所も算定できるため、回復期における歯科の口腔管理の推進に大きく寄与すると考えられる。当院でもこれらの新設点数を積極的に活用し、入院患者の口腔機能管理に注力している。

しかし、回復期入院中にいくら口腔環境を整えたとしても、退院後に適切な口腔管理を継続できなければ、口腔環境は再び悪化する可能性がある。高齢の回復期退院患者は、入院前から歯科通院を中断していたり、後遺症によるADL（Activities of Daily Living）の変化で通院が困難になったりする場合が多い。そのため、退院後の生活スタイルに合わせ歯科診療を受けられる環境を整えることが重要である。

当院では，この課題に対し、浜松市歯科医師会と協力し，患者紹介システムを構築している。このシステムは、当院歯科からの情報を元に、歯科医師会が患者の状況に適した複数の歯科診療所を選定し、受け入れ可能か確認する仕組みである。入院中の口腔管理に加え、退院時に患者を地域の歯科診療所や後方施設に紹介することは，切れ目のない口腔管理を実現し、患者の口腔健康状態を良好に維持するために不可欠である。

今回は、歯科標榜を持つ病院の回復期の口腔機能管理の取り組みと、地域連携の重要性について報告する。

**プロフィール** 〔略　歴〕

2012年　東北大学歯学部卒業
2013年　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野 大学院研究生（2016年 同医員）
2017年　浜松市リハビリテーション病院 歯科
2022年　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野 大学院修了（2022年 同非常勤講師　現在に至る）
2024年　浜松市リハビリテーション病院 歯科 医長　現在に至る





シンポジスト

## 奥　友久 氏 ｜ おく内科・在宅クリニック 院長

# 「訪問診療を実践する医師の立場から、医科と歯科の連携や歯科に求める役割」

超高齢、多障害、多死社会が到来する。その時代における訪問診療は、医科であれ歯科であれ、より包括的で効果的な診療と連携が求められる。

また、この時代におけるプライマリ・ケアは特徴的な課題を有する。家庭医として本邦の理論を牽引する藤沼は、「未分化健康問題」、「複雑困難事例」、「マルチモビディティ」、「下降期慢性疾患」を「卓越したジェネラリスト診療（EGP）」として対応する健康問題と定義する（藤沼康樹，2024）。

上記の課題に応えるため訪問歯科に期待するのは局所治療のみならず、「包括管理の一環としての口腔視点」、「治療の余益と負担の調整」、「ACPを含めた物語を扱うスキル」、「顔腕腹が見える連携とICT活用」等の役割やスキルである。医科も相応の努力が必要である。

また、特に食支援は医科・歯科・多職種連携の象徴的テーマである。

①評価（疾患・病態・嚥下動態・全身状態・摂食動作・生活全般・認識）
②介入（疾患治療・局所介入・訓練・代償法・環境改善・行動変容・介護支援・QOL支援）
③連携（紹介状・報告書・相談と提案・ACP連携・ICT・チームビルディング）を総合して初めて良い支援が成立する。

全てを一人で担うプレイヤーはいないからこそ、地域包括ケアシステムのチーム力が問われており、地域共生社会につなげるための重要な現場だと言える。

シンポジウム当日は事例を通じ、これらの具体的枠組みを提示したい。

**プロフィール** 〔略　歴〕

2008年　大阪公立大学医学部卒業
2010年　諏訪中央病院 内科研修医
2013年　浜松リハビリテーション病院短期研修
2015年　同院 家庭医療・総合診療専門研修プログラムディレクター
2017年　同院 在宅地域ケアセンター副センター長
2018年　同院 食・嚥下外来担当医
2021年　KISA2隊大阪 事務局長
2023年　おく内科・在宅クリニック 院長
2024年　一般社団法人 地域包括ケア研究所 所長

〔 13:00－14:00 ● 2F ソラシティホール 〕

# 教育講演

# 口腔機能検査を生かした管理の実際

〔 講　　師 〕

上田 貴之 氏 | 東京歯科大学 老年歯科補綴学講座 主任教授







講 師
上田 貴之 氏 | 東京歯科大学 老年歯科補綴学講座 主任教授

近年の検査機器の進歩と普及により、口腔機能の客観的な評価が簡便できるようになってきました。特に咬合力や咀嚼機能を数値化することが可能となり、個々の機能の状態を把握するとともに、治療介入前後の変化や経時的な低下傾向を視覚化する手段としても有用です。

こうした検査結果は、単なる診断の手がかりにとどまらず、治療の方針決定やその効果判定、さらには患者とのゴールの共有においても重要な情報となります。一方で、数値にのみ頼ることによる問題点も生じますので、検査結果のみに頼るのではなく総合的な判断が必要です。

さらに、口腔機能は個別の機能低下だけでなく、複合的な機能の問題としてとらえる視点も求められています。オーラルフレイルや口腔機能発達不全症、口腔機能低下症といった概念は、個々の症状を統合的に評価し、全体像としての機能維持・向上を目指す口腔機能管理の必要性を裏づけています。そのような視点をもち、包括的な視点での評価と対応が重要です。

本講演では、口腔機能検査の目的に応じた使い分け、結果の解釈について共有させていただきます。また、口腔機能管理は、口腔健康管理の中の1つであり、他の管理との関係性についても整理したいと思います。

**プロフィール**

〔 略　歴 〕

1999年　東京歯科大学卒業
2003年　東京歯科大学大学院歯学研究科修了
2003年　東京歯科大学・助手
2007年　東京歯科大学・講師
2007年　長期海外出張（スイス連邦・ベルン大学歯学部補綴科客員教授）
2009年　東京歯科大学復職
2010年　東京歯科大学・准教授
2016年　文部科学省高等教育局医学教育課技術参与（2018年まで）
2019年　東京歯科大学教授
2025年　東京歯科大学水道橋病院副病院長

〔 主な活動 〕

- 日本老年歯科医学会　常任理事・専門医・指導医
- 日本補綴歯科学会　常務理事・補綴歯科専門医・指導医・学術委員長
- 日本歯科医学教育学会　理事・編集委員長

〔 主な著書 〕

『診療室ではじめよう! 口腔機能管理と栄養指導 第2版』永末書店

〔 14:15－15:15 ● 2F ソラシティホール 〕

特別講演

# 高齢者の味覚障害と訪問歯科

〔 講　　師 〕

**堤　理恵** 氏 | 広島大学大学院 医科学研究科 客員准教授







講 師
**堤　理恵** 氏 | 広島大学大学院 医科学研究科 客員准教授
サントリーグローバルイノベーションセンター 主任研究員

高齢社会の進展に伴い、在宅や施設で生活する高齢者における口腔機能および栄養管理の重要性は一層高まっている。とりわけ味覚を含む感覚機能は加齢により低下しやすく、それに伴い食欲の減退や食事摂取量の低下が生じることが少なくない。一方で、味覚の鈍化により塩味や甘味を過剰に求め、塩分や糖分の摂取が偏る結果、低栄養と同時に高血圧や糖尿病などの生活習慣病を誘発するリスクが増大する。これらは全身の健康にとどまらず、活動性や意欲の低下を通じてQOLの低下にも直結する問題である。

また、近年の研究により、口腔内細菌叢の変化が全身の健康に影響を及ぼすことが明らかにされつつある。歯周病菌の増加や常在菌の減少は免疫力の低下を招くだけでなく、認知症の進行との関連も指摘されている。このことから、口腔衛生と味覚機能の維持は、単なる食生活の問題にとどまらず、生活習慣病や認知症の予防に資する重要な課題であるといえる。

しかしながら、高齢者における味覚低下に対する積極的なアプローチは未だ十分に確立されていない。義歯の調整や口腔清浄などの歯科的支援に加え、味覚を考慮した栄養学的介入や食事設計の工夫が必要とされる。具体的には、旨味や香りを活用した減塩食、温度や食感に配慮した調理法、多様な食材を取り入れた彩り豊かな献立設計など、食によるアプローチは高齢者の食欲喚起と栄養状態改善に大きな可能性を有している。

本講演においては、高齢者における味覚機能低下の実態とその臨床的意義を概説し、口腔衛生との関連を整理する。さらに、栄養学的観点からの具体的支援方法として、食事の工夫による味覚補完や嗜好性の改善を通じた栄養状態維持の取り組みを紹介する。訪問歯科診療の現場においては、歯科医師・歯科衛生士に加えて管理栄養士や介護職との多職種連携が不可欠であり、地域包括ケアの中で口腔・味覚・栄養を一体的に捉える視点が求められる。

本講演が、味覚を切り口とした高齢者支援の新たな展開を考察する契機となり、訪問歯科の実践における栄養アプローチの可能性を広げる一助となることを期待する。

---

**プロフィール**

〔 学歴および職歴 〕

2001年　武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科卒業
2006年　徳島大学大学院栄養学研究科博士後期課程修了
2005年　カルフォルニア大学サンディエゴ校医学部附属病院（2006年まで）
　　General Clinical Research Center Pre-doc Fellow
2006年　カルフォルニア大学サンディエゴ校医学部（2008年まで）
　　内分泌・代謝学部門ポスドク研究員
2008年～2009年　武庫川女子大学短期大学部講師
2009年4月～2010年　徳島大学医学部代謝栄養学分野特任助教
2010年4月～2015年2月　徳島大学医学部実践栄養学分野助教
2015年3月～2018年4月　徳島大学医学部代謝栄養学分野助教
2018年5月～2023年3月　徳島大学医学部代謝栄養学分野講師
2023年4月～2025年3月　徳島大学医学部代謝栄養学分野招聘准教授
　　広島大学医学部研究員
2025年4月～現　在　広島大学大学院医科学研究部 客員准教授
　　サントリーグローバルイノベーションセンター 主任研究員

〔 主な活動 〕

- 日本臨床栄養代謝学会 がん栄養療法ガイドライン作成委員会
- 日本集中治療医学会 栄養ガイドライン委員
- 日本病態栄養学会評議員
- 日本小児栄養研究会運営委員
- 日本内分泌学会
- 日本栄養食糧学会
- ENDO；endocrine society
- ESPEN；European society of parenteral enteral nutrition

〔 主な受賞歴 〕

2010年6月　WE（Women in Endocrinology）top scientist award
2016年2月　SCCM（米国集中治療学会） GI & Nutrition Award
2017年9月　徳島県科学技術大賞

〔 主な研究分野 〕

- 臨床栄養学（急性期、がん、免疫疾患）・代謝学

〔 12:10―12:50 ● 2F ソラシティホール 〕

# ランチョンセミナー



## 超高齢社会における S-PRGフィラー含有歯科材料の可能性
### ～歯科訪問診療での応用への期待～

講 師　猪越 正直 氏 | 東京科学大学大学院 医歯学総合研究科
口腔デバイス・マテリアル学分野

超高齢社会の進展に伴い、高齢者人口は増加の一途をたどり、歯科訪問診療の重要性は極めて高い。高齢者、特に要介護高齢者においては、セルフケアの困難さ口腔乾燥等により、口腔内環境の悪化が常態化しており、誤嚥性肺炎などの全身疾患リスク低減のためにも、その改善が喫緊の課題となっている。

株式会社松風が開発したSurface reaction-type Pre-Reacted Glass-ionomer（S-PRG）フィラーは、特殊処理を施した多機能性ガラスコア表層に安定化したグラスアイオノマー相を持つバイオアクティブ新素材である。S-PRGフィラーは、ストロンチウムイオン、フッ化物イオンなど6種類のイオンを徐放することで、歯質強化能、酸緩衝能、そして口腔衛生管理において重要な抗菌効果を示すことが報告されている。このバイオアクティブなS-PRGフィラー含有歯科材料は、有病高齢者歯科診療、特に歯科訪問診療における口腔環境改善の可能性がある材料として高い期待が寄せられる。

これまで我々は、セメント、義歯安定材、ティッシュコンディショナー、硬質リライン材などの材料にS-PRGフィラーを添加し、その物性を評価してきた。特に、S-PRGフィラー含有義歯安定材、ティッシュコンディショナー、および硬質リライン材が、義歯関連の口腔病態予防に資する明確な抗菌効果を発揮することを明らかにしている。

本ランチョンセミナーでは、S-PRGフィラー含有歯科材料に関するエビデンスを紹介する。高齢者のQOL向上と全身的な健康維持に不可欠な抗菌効果を中心に論じ、超高齢社会におけるS-PRGフィラー含有歯科材料の臨床応用と今後の可能性について考察したい。

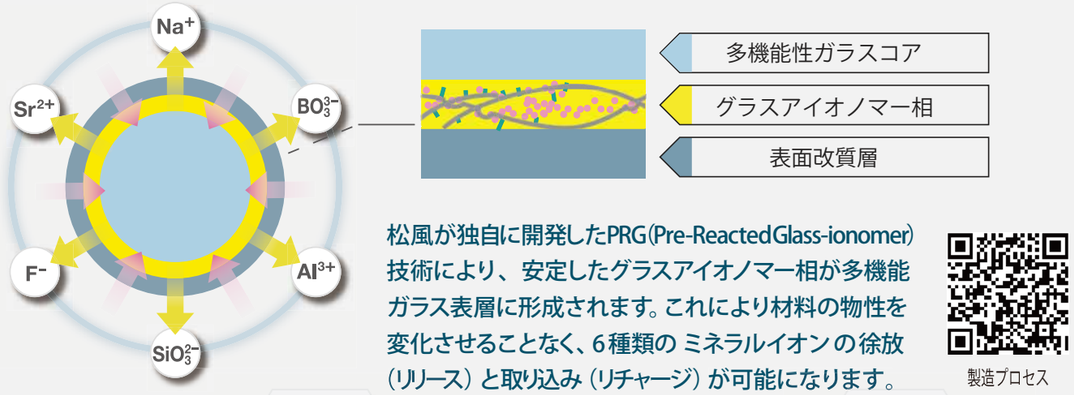
**プロフィール**　〔 略　歴 〕

2006年　東京医科歯科大学 歯学部歯学科 卒業
2011年　東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 全部床義歯補綴学分野 修了
2014年　KU Leuven（University of Leuven）, Doctoral School of Biomedical Sciences 修了
2015年　東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野 助教
2021年　東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野 講師
2022年　東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野 准教授
2024年　東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 口腔デバイス・マテリアル学分野 教授
2024年　東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 口腔デバイス・マテリアル学分野 教授



Giomer（ジャイオマー）
バイオアクティブ素材
「S-PRGフィラー」を応用した
デンタルマテリアル
PRG Technology Giomer

フィラー
S-PRG FILLER
マルチイオン
リリース＆リチャージ




松風が独自に開発したPRG（Pre-Reacted Glass-ionomer）技術により、安定したグラスアイオノマー相が多機能ガラス表層に形成されます。これにより材料の物性を変化させることなく、6種類の ミネラルイオンの徐放（リリース）と取り込み（リチャージ）が可能になります。

製造プロセス

BIOACTIVE
マルチイオンによる
バイオアクティブ効果




エビデンス検索

問い合わせ
giomer@shofu.co.jp
075-561-1182
www.giomer.jp
www.shofu.co.jp
giomeratshofu
SHOFU

〔 9:30－10:15 ● 2F テラスルーム 〕

# スポンサードセミナー



## 口腔機能管理の標準化と効率化をサポートするシステムの紹介

### ― 医療・介護現場における口腔リハビリ支援システム「mogpal（仮称）」―

講 師　小原 裕平 氏 | 株式会社ロッテホールディングス
ウエルネス事業戦略部 mogpal事業担当

超高齢社会の進行とともに、「口腔機能の維持および向上」は医療・介護分野における重要課題として注目されています。とりわけ、口腔機能低下症や口腔機能発達不全症の早期発見と継続的ケアには、地域歯科医療の果たす役割が極めて大きいと考えられます。

しかし、臨床現場では「どのように評価・記録・リハビリを実施すべきかが不明瞭であり着手しがたい」や「記録や計画作成に時間を要するため作業負荷が大きい」といった課題が多く聞かれます。

これらの課題に対し、私たちは歯科医院や訪問診療の現場で簡便に運用できる口腔リハビリ支援システム「mogpal（もぐぱる ※仮称）」を開発しました。本システムは、口腔機能評価項目のデジタル管理・集計機能を備えており、患者個々の評価結果に基づいて最適化されたリハビリ提案および患者向けの解説を支援します。さらに、患者説明用のレポートや管理計画書などの関連書類をシステム上で瞬時かつ効率的に出力できるため、限られた時間および人員の中でも継続的な口腔機能管理を支援します。

本発表では、なぜ食品メーカーが本事業を重要視しているのかを含め、「mogpal」の開発背景とシステム概要を紹介し、歯科医院様の「日々の診察業務」と「社会的に要求される口腔機能管理」の両立サポートについてお話しいたします。

**プロフィール**〔 略　歴 〕

2014年～　株式会社ロッテ 中央研究所
2020年～　株式会社ロッテ 経営戦略部 経営戦略課
2022年～　株式会社ロッテ 経営戦略部 事業開発課
2024年～　現職



お口の恋人 LOTTE

口腔機能管理を医院経営の柱に

超高齢社会の到来と診療報酬改定により、重要性が高まる口腔機能管理
限られた時間・人員の中でも、新たな収益の柱を築くサポートをします

mogpal ※仮称




口腔機能
発達不全症

口腔機能
低下症

※製品名及びサービス内容は開発中のため、予告なく変更する場合があります。

〔 14:15－15:00 ● 2F テラスルーム 〕

# 会員口演 1

## 2011年～2023年の間に当院が訪問歯科診療で施行した食支援の概要

医療法人社団秀和会 つがやす歯科医院 院長
斎藤　徹 氏 〈津川　堯 氏・菊池 幹悠 氏・西田 望 氏・野々村 茜 氏・スクリボ理絵 氏〉

**【目　的】**
当院では特別養護老人ホーム（特養）や介護老人保健施設（老健）などの介護施設の入所者や居宅療養者に対する。食支援を積極的に行なっている。本発表ではその概要を報告する。

**【方　法】**
対象は、2011年1月～2023年12月の間に当院が訪問診療で食支援を施行した新患症例1,562例（男性614例、女性948例、平均年齢82.3歳）（再新患を除く）とした。

**【結　果】**
同期間に当院が訪問診療を施行した新患症例は9,164例であり，食支援を施行した症例は17.0%を占めていた。食支援症例の年齢分布は、80歳代が最も多く640例（41.0%）で、次いで90歳代469例（30.0%）であった。訪問先の施設は特養が813例と過半数を占めており、老健、病院、グループホームなどは200症例以下であった。基礎疾患・既往疾患の内訳は認知症が最も多く951例（60.9%）であり、次いで肺炎807例（51.7%）であった（基礎疾患の重複症例あり）。

**【考　察】**
高齢化が進行しているわが国では今後益々食支援の需要が高まると考えられる。当院は今後も関連多職種と連携して要介護高齢者や有病者の食支援を続けていきたいと考えている



**プロフィール**

〔 略　歴 〕
1979年 3 月 北海道大学歯学部卒業
1979年 4 月 北海道大学歯学部口腔外科学講座入局
1982年10月 Visiting Fellow, Biological Response Modifiers Program, National Cancer Institute, USA（1984年9月まで）
1985年 1 月 北海道大学歯学部口腔外科学講座 助手
2000年 4 月 特別医療法人刀圭会協立病院 副院長
2008年 4 月 一般財団法人精神医学研究所附属東京武蔵野病院 歯科部長
2014年10月 医療法人社団秀和会つがやす歯科医院
2023年11月 医療法人社団秀和会つがやす歯科医院 院長

〔 資格等 〕
- 歯学博士（北海道大学）
- 日本口腔外科学会 指導医・専門医
- 北海道大学歯学部・帯広高等看護学院・帯広大谷短期大学 非常勤講師



〔 14:15－15:00 ● 2F テラスルーム 〕

# 会員口演 2

## 訪問歯科診療におけるデジタル技術の応用

医療法人峰良会 二木歯科医院 副院長 井山 禎之 氏

**【目　的】**
訪問歯科診療で使用されるデジタル機器として、デジタル式ポータブル歯科X線撮影装置、持ち運び可能な口腔内スキャナー装置が代表的なものとして挙げられる。当院では2年前より口腔内スキャナー装置を導入した。補綴治療の際に従来は印象材を用いた印象採得を行っていたが、印象の変形が大きな問題となっていた。これは印象に石膏を注入するまでの時間が長時間になることが要因であったが、口腔内スキャナーによる光学印象採得によりこの問題は解決し、精度の高い補綴物の作製が可能となった。今回、訪問歯科診療において口腔内スキャナーを用いた補綴治療のメリットについて紹介したい。

**【方　法】**
当院では2年前にDenntsply Sirona Primescan Connectを導入し、昨年よりNobel Biocare Dexis Isを導入し、主に訪問歯科診療の補綴治療において、光学印象採得を積極的に行っている。

**【結果と考察】**
今後の訪問歯科診療においては口腔内スキャナーを用いた補綴治療が非常に有効になってくると考えられる。保険治療、自費診療を問わず、光学印象採得が可能な患者に対して、従来の印象材を用いた印象採得と比較して、多くのメリットがあるという観点からも、積極的に導入すべきシステムであると考えられる。



**プロフィール**

〔 略　歴 〕
平成13年　広島大学歯学部卒業
平成13年　国立病院呉医療センター歯科口腔外科勤務
平成14年　医療法人社団峰良会 二木歯科医院勤務
平成17年　医療法人社団峰良会 二木歯科医院副院長
令和03年　日本大学松戸歯学部歯科臨床検査医学講座 歯学博士取得
令和04年　日本大学松戸歯学部 兼任講師　現在に至る

〔 資格等 〕
- 日本口腔インプラント学会 専門医
- 日本訪問歯科協会 認定医
- 日本訪問歯科医学会 会員
- 日本口腔外科学会 会員

〔 著　書 〕
『Q＆Aでよくわかる 口から健康まるごとBook』現代書林（共著）
『知って得する 口から健康お役立ちBook』現代書林（共著）

〔 14:15－15:00 ● 2F テラスルーム 〕

# 会員口演 3

## 歯科衛生士の雇用 ～ 採用・定着・そして退職に思う事

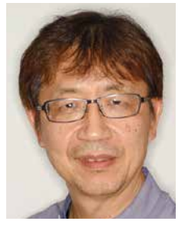
たなか歯科 院長 田中 和康 氏

私の診療所の地区では歯科衛生士の有効求人倍率が23倍です。また訪問診療先の病院では昨年歯科衛生士を3人採用しました。求人環境はますます悪化しています。

当院は開院して28年目。歯科衛生士は27年、20年の継続雇用、10年以上も複数名、継続雇用の実績があります。だから、採用も大丈夫だ、何とかなる、と勝手に思っておりました。しかし、実際はたいへん苦戦しました。

現在は歯科衛生士4名で日々歯科診療を行っております。また円満な退職も残ったスタッフに対しては重要だと考えます。

ただ、確実に言えることは、訪問診療が歯科衛生士の雇用にとても良い影響を与えています。当院での歯科衛生士雇用の取り組みをご紹介したいと思います。



**プロフィール**

- 日本歯科大学卒業
- 平成10年 たなか歯科開業
- 歯科医師
- 介護支援専門員
- 福祉住環境コーディネーター
- トゥルク大学（フィンランド）国際予防歯科研究所 予防歯科認定医
- 日本訪問歯科協会認定医



〔 2F 展示スペース 〕

# ポスター発表 1

## 食事を摂れず栄養指導を受けるも改善しない方へ、好物のみ食べる食事指導により経口摂取が可能となった一例

医療法人社団 夢仁会 中村歯科医院 竜 佑宗 氏

**【目 的】**
低栄養で寝たきりの高齢者には、栄養サポートが必要であるが、食欲が低下し食事を受け付けない方への対応は難しい。今回、寝たきりで食事が摂れない方へ、好物中心の食事内容指導により、安定して自立経口摂取可能となった症例を報告する。

**【症例及び処置】**
76歳の女性。低栄養で寝たきりのため訪問診療を開始。栄養サポート行うも改善が見られず、3月後当院訪問歯科開始（X日）。自立起床不可。認知症（－）、摂食嚥下障害を認める。栄養指導による改善が見られないため、栄養バランスを一切考慮せず好物のみ食べる食事指導を行った。

X+2週後、食事摂取量が増加したため継続指導した。

X+1月後、食欲が高まり間食も摂るようになった。自立起床できるまで回復したため、家族と同様の食事へ戻すよう指導した。

X+3月後、自立歩行可能な状態で体重が3kg戻り、安定して自立経口摂取が可能になったので、食事指導を終了した。

**【結果と考察】**
「好物のみ食べる」というアプローチは、食に対する気持ちを刺激し元に戻す一助となり、胃の蠕動運動を活性化させ、食欲を戻すのに有効であると考えられた。特に食事指導介入初期においては効果的であるといえる。



**プロフィール**

〔 略 歴 〕
医療法人社団夢仁会 中村歯科医院

〔 2F 展示スペース 〕

# ポスター発表 2

## 姿勢調整を行った上で デンチャースペース義歯を新製した症例

南成瀬歯科医院 久保倉 弘史 氏

**【 症例概要 】**
83歳男性。上下無歯顎で顎堤の高度吸収を認め、旧義歯の吸着不良による咀嚼障害を主訴に居宅での診療を行った。旧義歯長期使用により低位前噛みを呈し、円背を伴っていた。

**【 治療方針・治療経過 】**
旧義歯をリライニング後、デンチャースペース義歯を新製する方針とした。頭部姿勢制御装置及びポジショニングクッションを用い、頭部を固定して外来診療時に近い姿勢を再現。咬合高径回復のため術者誘導にて、初期設定としての顎位を採得した。デンチャースペース内で舌・頬・口唇の筋圧が均衡するニュートラルゾーン（筋圧中立帯）を求め、その範囲に調和する義歯形態を設定した。完成義歯は疼痛や吸着不良を認めず、咀嚼障害が改善した。

**【 考察・結論 】**
円背や旧義歯長期使用により低位前噛み傾向を呈したが、姿勢調整下で術者誘導による咬合採得を行うことで、適正な咬合高径と水平的顎位を回復出来た。デンチャースペース義歯は、顎位・機能のリハビリテーションを可能とし、高度顎堤吸収や姿勢変化を伴う訪問診療症例において有効であると考える。



**プロフィール**

〔 略　歴 〕
2021年　昭和大学歯学部歯学科 卒業
2022年　奥羽大学歯学部附属病院臨床研修 修了
2023年　医療法人MDC 南成瀬歯科医院勤務　今に至る

〔 所属学会・研究会 〕
- 全国訪問歯科研究会（加藤塾）
- 日本訪問歯科協会
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
- 日本老年歯科医学会
- 日本顎咬合学会
- 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク
- 医介塾



同時開催 専門セミナー

〔 9:30－10:15 ● 1F Room A 〕

## 45分でわかる！ 訪問歯科 医療保険のキホン

講 師 伊藤 友記 氏 | 一般社団法人 日本訪問歯科協会



訪問診療をこれから始めようとする方が、白本や赤本をすべて読み込み、保険請求について理解するのはとても大変です。
そこでこのセッションでは、訪問診療を始めるにあたり最も重要な医療保険の点数「歯科訪問診療料」やその加算などについて、図解を用いてわかりやすく解説します。

〔 10:45－11:30 ● 1F Room A 〕

## 45分でわかる！ 訪問歯科 介護保険のキホン

講 師 小林 喜明 氏 | 一般社団法人 日本訪問歯科協会



訪問診療をおこなう際にネックとなるのが、保険請求のようです。その中でも特に、介護保険の請求の仕方がわからないという声を多く聞きます。
このセッションでは、介護保険の基本のキホンから、どのような書類を揃えればよいのか、どのように算定すればよいのかを、詳しく解説します。

〔 13:00－13:45 ● 1F Room A 〕

# 全身機能の視点からみた口腔の管理

講 師

**森下 元賀** 氏 | 令和健康科学大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授

口腔機能の低下は適切な対応を行わないままにしたりすることで、咀嚼、嚥下機能の障害から食事量の低下、栄養障害を引き起こして、全身のフレイルやサルコペニアに繋がり、死亡率にも関連する。逆に全身のサルコペニアは口腔・咽頭の筋の萎縮をも引き起こして、口腔機能の低下につながる。このように口腔機能と全身機能は相互に関連し合っている。

姿勢もまた口腔機能と密接に関連しており、加齢や疾患による不良姿勢、姿勢保持能力低下は咀嚼、嚥下機能だけでなく、歯科的処置時の対象者の疲労にもつながってくる。

したがって、口腔を適切に管理するためには全身機能、姿勢の知識が不可欠になる。

この講演では理学療法士の立場から全身と口腔の関連性を示し、訪問歯科診療の対象者の口腔機能低下予防、口腔管理をより効率的に行うための一助としたい。



プロフィール

〔 学　歴 〕
2000年　吉備国際大学 保健科学部 理学療法学科卒業
2005年　東京都立保健科学大学大学院 保健科学研究科 理学療法学専攻修了
2008年　首都大学東京大学院 保健科学研究科 博士後期課程修了

〔 職　歴 〕
2000年～2002年　国立浜田病院
2002年～2003年　埼玉医科大学総合医療センター
2003年～2005年　赤心堂病院
2005年～2011年　専門学校社会医学技術学院
2011年～2023年　吉備国際大学 保健医療福祉学部理学療法学科 准教授
2023年～現　　在　令和健康科学大学 リハビリテーション学部理学療法学科 教授

〔 所属学会 〕
- 日本神経理学療法学会
- 日本予防理学療法学会
- 日本栄養・嚥下理学療法学会 理事
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士・評議員
- 日本老年歯科医学会 代議員
- 日本小児歯科学会、ヨーロッパ嚥下障害学会
- 理学療法科学学会



〔 14:15－15:00 ● 1F Room A 〕

# がん患者の口腔管理と終末期ケア

講 師

**妻木 浩美** 氏 | 静岡県立静岡がんセンター 看護師長

がん治療による口腔トラブルは、口腔乾燥や口腔粘膜炎、味覚障害などを引き起こす。なかでも、がん薬物療法による口腔粘膜炎は、疼痛、経口摂取困難から低栄養を招くだけでなく、抗がん剤の減量さらには治療中止を余儀なくされることもある。口腔粘膜炎に対しては、治療前からの歯科受診と治療、ブラッシング、保湿剤の使用など予防的な口腔ケアを重点的に行う。医療者は患者自身で口腔ケアできるよう支援していく必要がある。

一方で終末期のがん患者においては、全身状態の悪化に伴い、口腔乾燥や出血、口臭などが起きやすい。経口摂取はおろかコミュニケーションも取りづらくなると、ご家族によっては非常につらいものである。医療者としては、患者が経口摂取できるその日まで、美味しく食べられるよう支援し、最期まで口腔内症状の緩和・ケアに努めていくことが大事である。

本セミナーでは、がん患者の口腔支持療法について、静岡がんセンターでの取り組みなど交えながらお話ししていきたい。



プロフィール

〔 略　歴 〕
1993年　静岡県立厚生保育専門学校 卒業
1993年　富士宮市立病院 入職
2000年　静岡県健康福祉部病院総室がんセンター開設準備室出向
（出向）国立がんセンター東病院 頭頸科病棟で２年間研修
2002年　静岡県立静岡がんセンター（開院）入職
2004年　副看護師長に昇進
2007年　摂食・嚥下障害看護認定看護師を取得
2015年　看護師長に昇進

〔 学会・社会活動 〕
- 日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士
- 日本がんサポーティブケア学会 粘膜炎部会委員
- 日本がん口腔支持療法学会 理事

〔 9:30－10:15 ● 1F Room B 〕 定 員：40名

〈 デモ講座 〉

# 訪問歯科診療とVEの有効性

**講 師**

**大久保 正彦 氏** | 医療法人 永寿会 恩方病院　歯科・歯科口腔外科

高齢化が進む現在、訪問歯科診療の現場において嚥下機能の評価はますます重要性を増している。なかでも嚥下内視鏡検査（VE）は、患者の自宅や施設で実施可能な点から、訪問診療に非常に適した評価手段である。VEは簡便でありながら、咽頭期の嚥下機能、誤嚥の有無、喉頭侵入、食道入口部での残留など、多くの情報を得ることができ、嚥下障害のスクリーニングやリハビリの効果判定において有効である。

一方で、VEは平面的な視野での検査であるため、咽頭の垂直的な構造も理解する必要があり、観察視野の制限や、誤嚥の見逃し、口腔期の評価が困難といった限界もある。本講演では、VEの基本的な実施方法に加え、臨床現場で遭遇しやすい所見のピットフォール、VEだけでは判断できないケースにおける対応法についても実例を交えながら解説する。また、VEの所見に基づいて選択されるべき代償法やリハビリテーション手技についても触れ、訪問現場での実践に活かせる知見を共有したい。



**プロフィール**

〔 所　属 〕
- 永寿会恩方病院歯科・歯科口腔外科
- 埼玉医科大学病院歯科口腔外科 客員講師
- 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 臨床講師

〔 学　歴 〕
2012年3月　日本歯科大学生命歯学部 卒業
2013年4月　埼玉医科大学大学院 入学（博士課程医学研究科口腔外科学専攻）
2019年3月　埼玉医科大学大学院 卒業（博士課程医学研究科口腔外科学専攻）

〔 職　歴 〕
2014年4月　埼玉医科大学医学部口腔外科学教室 助教
2018年4月　杏林大学耳鼻咽喉科学教室顎口腔外科 助教
2021年4月　永寿会恩方病院歯科・歯科口腔外科
2023年4月　埼玉医科大学医学部口腔外科学教室 客員講師　現在に至る

〔 学会活動等 〕
- 日本老年歯科医学会 代議員　社会保険委員会（幹事）
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 評議員・認定士
- 日本栄養治療学会（JSPEN）学術評議員・認定歯科医
- 日本栄養・嚥下理学療法学会 評議員 広報委員会
- 日本有病者歯科医療学会 専門医・指導医
- 日本口腔外科学会 認定医
- 日本嚥下医学会 嚥下相談歯科医



〔 10:45－11:45 ● 1F Room B 〕 定 員：40名

〈 実習講座 〉

# 簡単＆安全！嚥下力を高める表情筋マッサージ

**講 師**

**平松 満紀美 氏** | NPO法人 健康サポート 歯るる　副理事長

私たち医療従事者だけでなく、患者さん・施設利用者さんともにマスクを装着しています。マスクで顔を覆うことで表情筋の動きが少なくなり硬くなっている方が増えます。マスクのゴムで耳が前方に引っ張られ、その際耳のついている骨（側頭骨）が前方に引き寄せられ耳周辺がかなり疲れました。表情筋は、動かさなければ筋肉が衰えてしまいます。

表情筋は主に、口輪筋・頬筋・オトガイ筋など、嚥下運動に必要な筋力でありそのほか、口角を上に上げる筋肉（軽くほほ笑む）、口を横に広げる筋肉（口を開いて笑う）、眼の周りの筋肉（目をパッと開いたり、眉毛の上げ下げ）があります。硬くなった表情筋は、頬や口角が下がる、口も動かしづらくなり笑顔にならない。そうなると口腔機能の低下につながり、咬んだり飲み込んだりする嚥下機能も衰えてきます。

本講座では、口腔機能低下を防ぎ、嚥下を促す表情筋マッサージを解説いたします。



**プロフィール**

- スタディグループ歯っするメイト代表
- 口腔ケアサポートグッズ「歯っするライト」考案
- 生活習慣病予防（特定保健指導）認定
- 在宅療養指導（口腔機能管理）認定
- 摂食嚥下リハビリテーション認定
- 岡山大学摂食嚥下リハビリテーション 上級コース修了
- MDE協会認定デンタルエステティシャン
- 一般社団法人TOUCH 口腔機能指導士
- 公益社団法人日本歯科衛生士会会員　など

〔 13:00－14:00 ● 1F Room B 〕 定 員：40名

〈 実習講座 〉

# 口腔清拭 ～なぜ、あえてガーゼを使うのか～

講 師

**和田 ひとみ** 氏 | 口腔ケア支援グループ オーラルサポート 代表

「口腔清拭」にはどんな効果があって、どのような手技を行うのか?私たち歯科衛生士が「口腔清拭」を行う場面とは、どんな時でしょうか？無歯顎で粘膜のケアが必要な場合もあれば、口腔内の乾燥が強く脆弱な粘膜のケアとして行う場合もあります。時には食べるためのお口の準備体操として清拭を行うこともあります。対象者の状況によって「口腔清拭」の役割や手技は変わってきます。

また、行う側の手技によって「心地よいケア」になるか「不快なケア」になるか変わってしまいます。私個人の見解ですが、一見単純なケアの方が、実は難しいと思います。皆さんが行う「口腔清拭」は「心地よいケア」ですか?ただ口の中を拭くだけのケアではない。歯科衛生士が行う口腔清拭は、歯科衛生士の専門性を活かし口腔機能を評価していくことも重要です。

口腔はとてもデリケートな器官です、日々変化する口腔内の状況への対応だけでなく、美味しく食べられる口を維持するための口腔清拭を一緒に学ぶ機会になれば幸いです。



プロフィール

〔 現　職 〕
- 口腔ケア支援グループ「オーラルサポート」 フリーランス歯科衛生士
- 在宅訪問を中心に口腔ケアを行う
- 特別養護老人ホーム「やすらぎの園」非常勤歯科衛生士
- 特定医療法人財団大西会　介護老人保健施設「ひまわり」非常勤歯科衛生士
- 長野県歯科医師会　在宅連携室　非常勤歯科衛生士
- 介護施設等にて介護士向けの研修会講師
- 栄養士会、作業療法士会、各地域歯科医師会、歯科衛生士会等開催の研修会講師
- 長野摂食嚥下リハビリテーション研究会北信地区世話人
- 口腔ケア学会口腔ケアアンバサダー委員

〔 略　歴 〕

長野県公衆衛生専門学校卒業

2000年　宮本歯科医院勤務　訪問歯科診療を経験し、歯科衛生士による単独訪問で口腔ケアに従事する

2007年　フリーランスとして、訪問、口腔ケアを中心に活動

- 京都まちづくり口元気塾＆元気なお口研究会まほろば主催の研修会にて歯科衛生士が実践する「口腔機能評価、訓練」を学ぶ
- 口腔ケア支援グループ　オーラルサポートとして口腔ケアの普及に努める
- 長野摂食嚥下リハビリテーション研究会世話人
- 口腔ケアアンバサダー委員



〔 14:15－15:15 ● 1F Room B 〕 定 員：40名

〈 実習講座 〉

# 開口困難や拒否時に活かせるスポンジブラシ実践

講 師

**齋藤 しのぶ** 氏 | 医療法人 永寿会 恩方病院　歯科・歯科口腔外科　歯科衛生科長

要介護者の口腔衛生管理において、スポンジブラシは欠かせないツールである。汚れの除去・回収は重要であるが、「汚れさえ除去できれば不快感は仕方ない」という手技では、力任せの処置に繋がりやすく、拒否反応や処置の継続困難を招くことがある。不快感は口腔衛生管理の質を左右する重要な要素であり、「不快にさせない」工夫こそが、質の高い口腔衛生処置の基盤となる。本講座では、スポンジブラシを用いた口腔衛生処置における基本的なポイントや開口を促すための工夫等を具体的に解説する。

更に相互実習を通じて、手技の習得とスキルアップを図る。スポンジブラシの正しい使い方を理解し、実践できるようになることで、新入職歯科衛生士への指導や、看護師・介護士への口腔ケア教育にも応用可能である。

患者の尊厳を守りながら、安心・安全な口腔衛生処置を提供するための知識と技術を習得し、日々のケアに自信を持って取り組めるようになることを目指す。



プロフィール

〔 略　歴 〕

1996年　日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校卒業
　　医療法人社団 隆美会 川口歯科診療所勤務
2008年　医療法人永寿会 陵北病院 歯科診療部勤務
2017年　医療法人永寿会 陵北病院 歯科診療部 主任
2018年　医療法人永寿会 陵北病院 歯科診療部 歯科衛生科長
2021年　医療法人永寿会 恩方病院 歯科・歯科口腔外科 歯科衛生科長
　　現在に至る

〔 著書等 〕

『はじめて学ぶ 非経口摂取患者の口腔衛生管理』医歯薬出版株式会社 2021年
『プロが行う訪問歯科 口腔衛生管理の実践技術』日本訪問歯科協会 2024年
『プロ向け勉強会用コンテンツ集 口腔衛生の管理』日本訪問歯科協会 2024年
『プロ向け勉強会用コンテンツ集 指示が入らない患者のための口腔衛生管理』
日本訪問歯科協会 2024年 ほか

〔 9:30－10:15 ● 1F Room C 〕

# 口腔粘膜から読み解く患者の変化

講 師

**今井 美季子** 氏 | 大阪歯科大学附属病院 口腔リハビリテーション科

訪問歯科医療は、限られた環境下であることも多く、患者さんの状態変化を迅速に把握することが難しいことがあるのではでしょうか。

この様な状況の中で口腔機能管理や口腔衛生管理を行うためには、口腔を通し全身状態や機能を把握することが求められており、その一つとして口腔粘膜があげられます。口腔粘膜は要介護状態、非経口摂取、がん治療、免疫疾患などにおいて様々な症状がみらます。歯科医療に従事する私たちはこれらの状態変化から問題点を抽出し、医科をはじめとした多職種連携の役割を果たすことが重要ではないでしょうか。今回は様々な口腔粘膜の症状や状態から考えらえる問題点を皆様と共有し、明日からの口腔健康管理の参考となれば幸いです。



プロフィール

〔 学　歴 〕
2000年3月　関西女子短期大学 保健科歯科衛生士学科 卒業
2015年4月　武庫川女子大学大学院 健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学修士課程 入学
2017年3月　武庫川女子大学大学院 健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学修士課程 卒業
2022年4月　大阪歯科大学大学院 医療保健学研究科 口腔科学専攻 博士課程 入学

〔 職　歴 〕
2000年4月　社会医療人若弘会 わかくさ竜間リハビリテーション病院 入職
2017年3月　社会医療人若弘会 わかくさ竜間リハビリテーション病院 退職
2017年4月　大阪歯科大学附属病院 口腔リハビリテーション科（専任歯科衛生士）入職
現職に至る

〔 資格・免許 〕
- 歯科衛生士・健康運動実践指導者・健康運動指導士
- 学会認定 / 日本口腔リハビリテーション学会認定歯科衛生士
/ 日本サルコペニア・フレイル学会　サルコペニア・フレイル指導士
/ 日本歯科衛生士会　在宅療養指導・口腔機能管理認定歯科衛生士



〔 10:45－11:30 ● 1F Room C 〕

# 吸着義歯でここまでできる！高度吸収顎堤への対応

講 師

**佐藤 勝史** 氏 | 佐藤歯科医院 ラ・フランスオフィス　院長

歯周病治療の進歩、無歯顎になる年齢の遅延、平均寿命の延伸等の要因により、顕著な高度吸収顎堤症例が年々増加しているように臨床で見受けられる。高度吸収顎堤症例では、口腔内の諸条件が悪化し、総義歯の吸着及び安定を求めるのが困難となりやすい。

そこで今回、下顎高度顎堤吸収症例の下記の特徴を解説し、対処法とそれらを配慮した“吸着”下顎総義歯製作法を紹介する。

1）レトロモラーパッドの変形
2）顎舌骨筋線下部のあたり
3）開口時の口腔底の迫り上がり
4）顎堤の平坦化
5）密着できる顎堤粘膜面積の狭小
6）粘膜の菲薄化
7）下口唇の舌側への位置移動



プロフィール

〔 おもな受賞歴 〕
2004年　日本顎咬合学会 一般口演優秀発表賞受賞
2005年　日本顎咬合学会 一般口演優秀発表賞受賞
2020年　日本顎咬合学会 一般口演優秀発表賞受賞

〔 おもな著書 〕
『What is Suction Denture?』デンタルダイヤモンド社 2014年 著
『This is Suction Denture!』デンタルダイヤモンド社 2017年 著
『Suction Denture パーフェクトガイド』デンタルダイヤモンド社 2017年 編著
（上記3冊は韓国語訳書籍・ロシア語訳書籍としても発刊）
『“Questions!” about Suction Dentures.』デンタルダイヤモンド社 2021年 著
（韓国語訳書籍としても発刊）
『Ultimate Suction Denture!』デンタルダイヤモンド社 2024年 著

〔 DVD 〕
『吸着理論がわかる！阿部二郎の下顎総義歯吸着テクニック』医療情報研究所 2019年
『高度吸収顎堤症例に対する吸着下顎総義歯での対応法』日本訪問歯科協会 2021年

〔 13:00－13:45 ● 1F Room C 〕

# 在宅での栄養支援と食事指導の実際

**講 師**

**米山 久美子 氏** | 認定栄養ケア・ステーションeatcoco 代表

「食べる」ということは、栄養を摂るだけではなく、生活の大きな楽しみの一つです。在宅療養者の多くは慢性疾患があり、低栄養、摂食嚥下障害、認知症などを併発していることに加え、家庭や生活環境も異なるため、在宅での食事や栄養の問題は複雑で多岐にわたる。

私たち在宅訪問管理栄養士は、療養者の「美味しい」や「食べたい」という気持ちを大切にしながら、アドバイスやサポートを実施しているが、摂食嚥下の問題により食事を食べることが困難となっているケースも少なくない。そのような場合、在宅療養者やそのご家族を中心に、歯科医師、歯科衛生士、セラピストなどの多職種と連携し、栄養や食事の支援を進めていくことが重要となる。

今回、在宅訪問栄養食事指導の実際をご紹介しながら、歯科医師と管理栄養士が協働する重要性について、ともに考える機会としたい。



**プロフィール**

〔 略　歴 〕

1997年　相模女子大学短期大学部家政科食物栄養専攻 卒業
2022年　東京医療保健大学大学院医療栄養学領域 修了

1997年　一冨士フードサービス株式会社
2001年　伊藤病院（甲状腺疾患専門病院）
2006年　フリーランス（特別養護老人ホーム、特定保健指導、外来栄養食事指導等）
2010年～ 医療法人社団白木会 地域栄養サポート自由が丘
2017年～ 機能強化型認定栄養ケア・ステーションeatcoco 代表
2021年～ 江東区東砂福祉園（生活介護）
2022年～ 慶應義塾大学 看護医療学部　非常勤講師
2024年～ 下馬あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）
現在に至る

〔 資格等 〕

- 認定在宅訪問管理栄養士
- 在宅栄養専門管理栄養士
- パーキンソン病療養指導士
- 一般社団法人 日本在宅栄養管理学会 関東・甲信越ブロック副ブロック長・理事
- 公益社団法人 東京都栄養士会　理事
- 公益財団法人 日本栄養士会　理事



〔 14:15－15:00 ● 1F Room C 〕

# 「食べる」ための歯科的アプローチ

**講 師**

**齋藤 貴之 氏** | たのしみ歯科 院長

〝たべる〟ことは〝いきる〟ことであり、要介護者にとって暮らしの彩りや生活の質に直結している。
歯科は単なる口腔疾患の治療にとどまらず、〝たべる〟を支える専門職として重要な役割を担っている。歯科訪問診療では、むし歯や歯周病の治療、義歯調整による咀嚼機能の改善に加え、口腔機能低下に対するリハビリテーションを通じて嚥下機能を回復し、安全な食事環境を整えている。

また、周術期口腔ケアや在宅・施設での口腔管理は、誤嚥性肺炎予防や栄養状態の維持に寄与し、多職種連携の中で重要な位置を占めている。さらに、患者が〝食べたいものを食べられる〟ようになることは、機能の回復にとどまらず、家族や仲間と食卓を囲む喜びを取り戻し、生活の〝たのしみ〟を創出することにつながる。

本セミナーでは、「たべる」のための歯科的アプローチを咀嚼・嚥下機能改善、口腔ケア、そして〝たのしみをつくる〟の観点から整理し、臨床事例を交えて紹介する。



**プロフィール**

〔 略　歴 〕

2003年　東京歯科大学卒業
2007年　同大学院修了（老年歯科補綴学）
2008年　こばやし歯科クリニック副院長（～2020年3月）
2014年　東京歯科大学口腔健康科学講座　摂食嚥下リハビリテーション研究室 非常勤講師
2015年　一般社団法人暮らしの保健室かなで 理事
2020年　ごはんがたべたい歯科クリニック 院長
2025年　たのしみ歯科 開設　院長

〔 資格等 〕

- 歯学博士（老年歯科補綴学）
- 一般社団法人日本老年歯科医学会認定医・専門医・指導医・摂食機能療法専門歯科医師
- 一般社団法人日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 認定士
- 厚生労働省 歯科臨床研修医 指導医
- 介護支援専門員（ケアマネージャー）

〔 10:45－11:30 ● 2F テラスルーム 〕

# 訪問歯科診療を進化させる「摂食嚥下を診る力」

**講 師**

**谷口 裕重 氏** | 朝日大学 歯学部 摂食嚥下リハビリテーション学分野　教授

訪問歯科診療では、単に口腔を観察・処置するだけでなく、その先にある摂食嚥下機能全体を多角的に捉える視点が歯科医療者（歯科医師・歯科衛生士）に強く求められています。特に在宅や施設の現場では、「食べられない原因」が歯や義歯、もしくは口腔機能を含めた口腔にあるのか、摂食嚥下機能低下によるものかを正確に見極める“診る力”が、リハビリテーションの起点となります。

本セミナーでは、口腔機能評価だけにとどまらず、摂食嚥下障害のサインを捉える観察のポイント、多職種連携による支援体制の構築とその実践法についても解説します。歯科医療者が訪問現場で「どこまで見て、どう支援すべきか」を最新の知見と具体的な症例を交えて臨床的・実践的にお伝えします。訪問歯科診療を始めた方はもちろん、臨床力を高めたい方や摂食嚥下への理解を深めたい方も、ぜひご参加ください。



**プロフィール**

〔 学　　歴 〕 2004年3月　愛知学院大学歯学部 卒業
2004年4月　新潟大学 医歯学総合研究科（口腔生命科学専攻）博士課程 入学
2008年3月　同上 卒業

〔 職　　歴 〕 2008年４月～2008年８月　新潟大学医歯学総合研究科 摂食・嚥下リハビリテーション学分野 医員
2008年８月～2010年３月　新潟大学医歯学総合研究科 摂食・嚥下リハビリテーション学分野 助教
2010年４月～2015年３月　新潟大学医歯学総合病院 摂食・嚥下機能回復部 講師
2012年２月～2012年９月　Johns Hopkins University, Department of Physical Medicine and Rehabilitation Medicine, Post-Doctoral Fellow
2015年４月～2017年３月　藤田保健衛生大学医学部 歯科 講師
2017年４月～2018年10月　藤田保健衛生大学医学部 歯科・口腔外科 講師
2018年10月～2020年３月　朝日大学 歯学部 障害者歯科学分野 准教授
2020年４月～2023年３月　朝日大学 歯学部 摂食嚥下リハビリテーション学分野 准教授
2023年４月～　朝日大学歯学部 摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授
2024年４月～　朝日大学病院 口腔管理・食支援センター センター長（併任）　現職に至る

〔 学会・資格 〕
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 学会評議員 認定士
- 日本老年歯科医学会 代議員 摂食機能療法専門歯科医師 指導医 専門医 認定医
- 日本栄養治療 学会 学術評議員 認定 歯科医　ほか

〔 著　　書 〕『はじめて学ぶ歯科衛生士のための咽頭喀痰吸引マニュアル 呼吸器のリスク管理と実践』医歯薬出版 2023年（共著）
『Down症候群の歯科治療における診断と処置方法ガイドライン』公益社団法人 日本障害者歯科学会 2025年
『発達期障害児者の摂食機能療法の手引き』公益社団法人 日本障害者歯科学会 2025年（共著）
『口腔リハビリテーション学』永末書店 2025年　ほか



〔 10:45－11:30 ● 1F Room C 〕

# ST視点から考える口腔リハ ―症例から学ぶ評価・訓練―

**講 師**

**吉田 直行 氏** | 合同会社リハ・クリエイティブ 代表
朝日大学 歯学部 口腔病態医療学講座 摂食嚥下リハビリテーション学分野 非常勤助教

本講演ではST視点での口腔リハビリテーションについて実際の症例を通してお伝えします。舌の動きや呼吸、姿勢などについて、評価を行った際の患者さんの反応をどのように分析し、どのように訓練プログラムに繋げるのかを一緒に考えていきたいと思います。また、訓練を行うことでどのような変化がみられたのかも併せて動画を見ながら解説します。明日から臨床で役立つ内容をお伝えします。



**プロフィール**

〔 略　　歴 〕
2010年　言語聴覚士免許取得
2010年　急性期・回復期・訪問看護ステーション等にて勤務（2022年まで）
2022年　合同会社リハ・クリエイティブ設立
2024年　朝日大学歯学部摂食嚥下リハビリテーション学分野非常勤助教

# 出展企業一覧

会場案内（3・4ページ）の出展ブース番号順になります

| 出展企業 | ご紹介商品と商品概要 |
|---|---|
| ①サンシステム株式会社<br>TEL 03-5816-6753<br>東京都千代田区外神田6-10-6 SSビル | ●Sunny-NORIS Cloud・Sunny-XROSS<br>訪問先やご自宅からカルテ入力やレセプト業務をしてみませんか? |
| ②株式会社 CARESソリューションセンター<br>TEL 03-6433-2280<br>東京都品川区南品川2-2-5 REID-C南品川ビル4F | ●ミリングマシン PolyFlex（ミリングマテリアル）<br>ノンクラスプデンチャー用のPolyFlexや切削機の展示。 |
| ③株式会社歯愛メディカル<br>TEL 03-3294-8788<br>石川県能美市福島町に152番地 | ●ポータブルユニット メディー<br>操作性を追求したシンプル設計で訪問先でも快適な歯科診療を提供。 |
| ④株式会社松風<br>TEL 07-5561-1182<br>京都府京都市東山区福稲上高松町11 | ●PRGブロケアジェルα、PRGバリアコート、ビューティシーラント<br>マルチイオンによる予防機能に特化したバイオアクティブ製品群。 |
| ⑤ワシエスメディカル株式会社<br>TEL 03-3815-7682<br>東京都文京区本郷2-31-8 | ●嚥下内視鏡・感染対策商品・聞こえサポートデバイス<br>嚥下内視鏡や難聴の患者さんとの会話サポートデバイスを展示。 |
| ⑥日本アイ・エス・ケイ株式会社<br>TEL 02-9869-2001<br>茨城県つくば市寺具1395-1 | ●ポータブルユニット　かれんEZ+<br>ピエゾンスケーラーを搭載した「かれんEZ+」をご紹介します。 |
| ⑦株式会社ヨシダ<br>TEL 03-3845-2941<br>東京都台東区上野7-6-9 | ●口腔内細菌カウンタ、Oramo-bf（オラモ）、口腔水分計ムーカス、クラプロックス、バイドロシニックイージー<br>在宅歯科医療に有用な検査機器と口腔ケア製品を展示します。 |
| ⑧大和製罐株式会社<br>TEL 03-6212-9744<br>東京都千代田区丸の内2-7-2 | ●エバースマイル　ムース食・とろみ飲料<br>素材本来の風味を味わえるムース食。均質な粘度のとろみ飲料。 |
| ⑨株式会社 S・Metal Service<br>TEL 08-2521-1360<br>広島県広島市安佐南区毘沙門台1-26-31 | ●歯科関係貴金属の分析買取<br>蛍光X線による貴金属（歯科材・宝飾）の乾式分析。 |
| ⑩デキシコウインジャパン株式会社<br>TEL 078-304-5311<br>兵庫県神戸市中央区港島南町5-5-2 | ●デキシコADX4000W・デキシコDX3000<br>着脱式バッテリー採用の、ポータブルX線撮影装置です。 |
| ⑪ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社<br>TEL 03-6408-4182<br>東京都品川区北品川4丁目7-35 御殿山トラストタワー13階 | ●Nobel Biocare N1インプラントシステム<br>専用のドリルと3ステップで完結する先進のインプラントシステム。 |
| ⑫正健プランニング／町田製作所<br>TEL 04-8734-6640<br>埼玉県春日部市南2-6-13 | ●内視鏡<br>安価なポータビリティ内視鏡の提案／歯科医院向けリフォーム提案。 |
| ⑬コルテンジャパン合同会社<br>TEL 04-2595-6945<br>東京都立川市錦町2-25-1 2階 | ●KENDAシリーズ、SteriQuick、Speedex,SPEC3,Hanel<br>チェアタイム短縮・正確な仕上げを可能にする製品多数ございます。 |
| ⑭クロスログ株式会社<br>TEL 050-3528-8040<br>福岡県福岡市博多区博多駅中央街8-27 第16岡部ビル5階 | ●訪問診療スケジュール管理システムCrossLog<br>訪問歯科のスケジュール管理・情報共有をもっとスマートに。 |
| ⑮株式会社GENOVA<br>TEL 0120-811-009<br>東京都渋谷区渋谷2-21-1 渋谷ヒカリエ34階 | ●医療メディア、AIチャット<br>クリニック専用のAIチャットボットで問い合わせ24時間対応。 |
| ⑯株式会社メドレー<br>TEL 050-1751-0849<br>東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー（13階） | ●Dentis<br>外来・訪問まで、歯科DXすべてをワンパッケージで提供。 |



| 出展企業 | ご紹介商品と商品概要 |
|---|---|
| ⑰株式会社エントラスト<br>TEL 02-2726-5655<br>宮城県仙台市青葉区国分町1-8-14 仙台協立第2ビル2F | ●ホームページ制作<br>歯科医院専門でホームページを制作しております。 |
| ⑱デンタルプロ株式会社<br>TEL 07-2920-6077<br>大阪府八尾市若林町2-58 | ●舌ブラシ、ハブラシ、フロス<br>舌専用ブラシや効率的な部分磨きが出来るハブラシを中心に展示。 |
| ⑲イーエヌ大塚製薬株式会社<br>TEL 03-6632-3509<br>東京都千代田区神田小川町1丁目1番地日幸神田ビル6階 | ●口腔ケア商品「ヒノーラEN」シリーズ　やわらか食「あいーと」<br>口腔ケアとやわらか食で食べる力を支え、QOL向上をサポート。 |
| ⑳株式会社フードケア<br>TEL 04-2700-0039<br>神奈川県 相模原市緑区橋本4-19-16 | ●ジェントルケア　マセレイトジェル<br>口腔内の乾燥物を素早く除去しやすくする新しい口腔清掃ジェル。 |
| ㉑株式会社シグマソリューションズ<br>TEL 01-9645-9710<br>岩手県盛岡市みたけ5丁目7-46 | ●口腔リハビリサポートシステム「mogpl」<br>注意の口腔機能管理。少人数・短時間で対応できる新ツール紹介。 |
| ㉒ジャパンクオリティ株式会社<br>TEL 03-5356-9151<br>東京都豊島区南大塚3丁目30-3 大塚トーセイビルⅢ10階 | ●口腔内スキャナーAoralsan3ワイヤレス<br>コードレスで実現する高速でスムーズな口腔内スキャン。 |
| ㉓ViXion株式会社<br>TEL 080-4735-1866<br>東京都中央区日本橋堀留町1-4-2-8F | ●ViXionシリーズ<br>見たいものにピントが合う、世界初のオートフォーカスアイウェア。 |
| ㉔株式会社シエン社<br>TEL 03-3816-7818<br>東京都文京区後楽1-1-10 日本生命ビル1階 | ●訪問歯科に関する歯学書<br>訪問歯科に関する話題の新刊や好評書籍を幅広く展示いたします。 |
| ㉕アース製薬株式会社<br>TEL 03-6375-8131<br>東京都千代田区神田司町2-12-1 | ●N.actオーラルリムーバルジェル、N.actマウスウォッシュスプレー<br>革新的“MA-T”システムの口腔ケア用品で訪問診療をサポート。 |
| ㉖株式会社ライフ<br>TEL 048-990-8201<br>埼玉県越谷市登戸町15-5 山新ビル | ●口腔水分計ムーカス　Murata口腔湿潤計ムーカス<br>口腔粘膜湿潤度検査・口腔機能低下症における口腔乾燥の診断機器。 |
| ㉗アサヒグループ食品株式会社<br>TEL 080-8035-9173<br>東京都墨田区吾妻橋1-23-1 アサヒグループ本社 | ●アサヒの口腔ケアブランド「オーラルプラス」、介護食ブランド「まんぷく日和」<br>在宅介護を支える、アサヒの口腔ケア商品と介護食の紹介。 |
| ㉘株式会社シケン<br>TEL 08-8532-2000<br>徳島県小松島市芝生町西居屋敷55-1 | ●口腔内スキャナー、入れ歯及び、マウスピース洗浄剤<br>最先端口腔内スキャナーと歯科技工士が推める洗浄剤各種。 |
| ㉙株式会社ジーシー昭和薬品<br>TEL 03-5689-1579<br>東京都文京区本郷一丁目28番34号 本郷MKビル1階 | ●セプトカイン・フロリードゲル・オラリンスHF・ヒノペリオPHF<br>新発売の歯科用局所麻酔剤セプトカイン配合注の展示致します。 |
| ㉚ストローマン・ジャパン株式会社<br>TEL 0120-41-8995<br>東京都港区芝5-36-7 三田ベルジュビル6F | ●SIRIOS、Straumann Dental Implant System<br>ここの治療ニーズに応えるSTRAUMANN™ SIRIOS。 |
| ㉛株式会社モリタ<br>TEL 03-3834-6164<br>東京都台東区上野2-11-15 | ●ポータキューブ+、ジェントルスティムEX、嚥下運動モニターB4S<br>新製品も展示しています。是非、弊社ブースへお立ち寄り下さい。 |
| ㉜横浜金属商事株式会社<br>TEL 02-2226-7704<br>宮城県仙台市太白区秋保町長袋字上原10-1 | ●貴金属リサイクルサービス<br>歯科材スクラップの受託精製及び買取をしております。 |

## 協賛企業一覧

| 協賛企業 | ご紹介商品と商品概要 |
|---|---|
| **株式会社ノーザ**<br>TEL 03-5348-1881<br>東京都中野区中央1-21-4 ノーザビル | ●チョキペイ<br>院内・院外どちらでも使用できるキャッシュレスサービスです。 |
| **株式会社ロッテ**<br>TEL 080-4440-4856<br>東京都新宿区西新宿3-20-1 | ●噛むこと研究室 ホームページ<br>ロッテは様々な機関と連携し、噛むことで皆様に貢献しています。 |
| **日本歯科薬品株式会社**<br>TEL 083-222-2221<br>山口県下関市竹崎町4-7-24 | ●お口を洗うジェルシリーズ製品<br>（お口を洗うジェル／お口を洗うジェルAZ／口腔ケア用吸引管）<br>誤嚥の心配がある患者さんのための口腔ケア用製品のご紹介です。 |




YOSHIDA

微生物定量分析装置

# 口腔内細菌カウンタ

NP-BCM01-A

2024年6月 診療報酬改定版

## 口腔内の衛生状態を 約1分 で簡単に検査

短時間　操作簡単




付属品
- 定圧検体採取器具 —— 1個
- 電源コード —— 1個
- ACアダプター —— 1個

標準価格：450,000円(税別)
販売名：口腔内細菌カウンタ NP-BCM01-A
一般的名称：微生物定量分析装置
届出番号：13B1X10381001003(一般 特管)
製造販売元：パナソニック株式会社
電話番号：0120-878-857

【別売品】専用消耗品 100回分（N-DP05）



測定溶液入カップ（100個入）　センサーチップ（100個入）　滅菌綿棒（105本入）

標準価格：29,800円(税別)
販売名：医科用綿棒 N-DP05
一般的名称：医科用撚綿子
届出番号：13B1X10381001004(一般)
製造販売元：パナソニック株式会社
電話番号：0120-878-857

操作簡単　使用方法 動画はこちら

特長 1

### 2つの検査で使える！

保険適用

■ 算定可能な検査と保険点数

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 口腔バイオフィルム感染症の検査 | 保険点数 130点 |
| 2 | 口腔機能低下症の検査 | 保険点数 65点 |

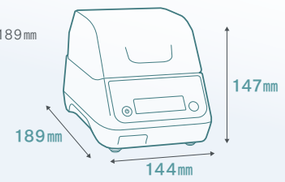
算定要件詳細は裏面へ

特長 2

### コンパクトサイズで 訪問歯科診療の場でも活躍！

機器本体寸法：
W144㎜×H147㎜×D189㎜

機器重量 約1.3kg




特長 3

### 検査も簡単！ 特別なノウハウ不要！

測定結果は わかりやすい7段階
フェイスマーク表示と測定数値のダブル表示

フェイスマーク表示部とレベル表示

少ない ← → 多い

| レベル 1 | レベル 2 | レベル 3 | レベル 4 | レベル 5 | レベル 6 | レベル 7 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 10万個未満 | 10万～100万個未満 | 100万～316万個未満 | 316万～1000万個未満 | 1000万～3160万個未満 | 3160万～1億個未満 | 1億個以上 |

# いつも貴金属リサイクルの最先端に私たちはいます。



## 純金積立（ゴールドクラブ）

横浜金属ゴールドクラブで
純金積立をしませんか？
（横浜金属株式会社運用）



コロ蔵

## 貴金属（宝飾品等）買取

貴金属精製グループだからこそ
どこよりも高値買取致します。

## 歯科材リサイクル

歯科医院 ・技工所様から発生する歯科材スクラップを受託精製回収及び買取致します。

【横浜金属㈱】
- ●一般社団法人 日本経済団体連合会会員
- ●一般社団法人 日本金地金流通協会正会員
- ●L.M.E(ロンドン金属取引所)銀地金公認ブランド
- ●㈱大阪取引所 銀地金受渡供用品指定ブランド
- ●㈱大阪取引所 銀地金指定鑑定業者
- ●日本産業規格認証取得工場（銀地金）
- ●ISO9001 認証登録

【横浜金属商事㈱環境リサイクル部門仙台事業所】
- ●ISO14001 認証登録

ESTABLISHMENT 1958

YOKOHAMA METAL CO.,LTD.


## 横浜金属商事株式会社

仙台支店/〒982-0243 宮城県仙台市太白区秋保町長袋字上原10-1
事業本部 /〒252-0244 神奈川県相模原市中央区田名 3656-4
Tel:042-774-5481 Fax:042-773-4775
本社・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡・札幌(営)・北陸(営)・四国(営)

https://yk-metal.com

0120-10-4580


横浜金属グループは貴金属リサイクルを通じて地球環境の保全に貢献しています。

NHOSA ノーザ




# 訪問診療で便利なキャッシュレス決済

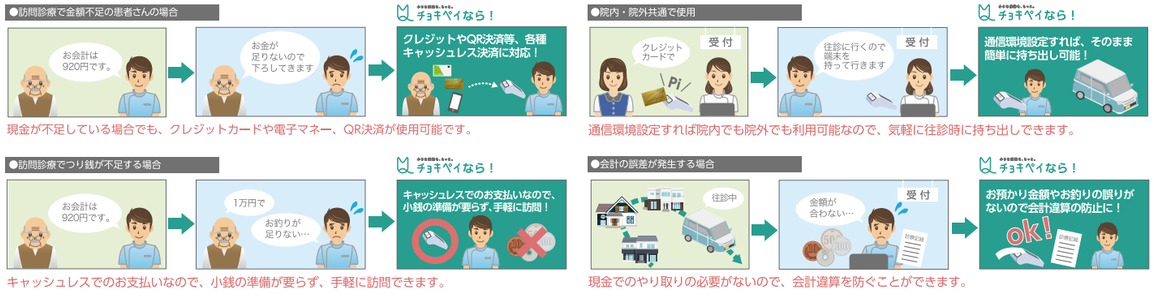
チョキペイ
小さな感動を、もっと。

業界最低水準の決済手数料率
1.79%
(VISA/Mastercard の場合)

- おつりを用意する必要がありません
- コンパクトでコードレス（プリンタ内蔵）
- モバイル型なので院内 / 院外の双方で利用可能
- マルチ決済対応（クレジット、電子マネー、QR 決済）

## 院内利用の端末がそのまま訪問先で使えます。

※WiFi やテザリング等の通信環境設定が必要です。




## お申込み、お問い合わせは最寄りのノーザ各支店まで


NHOSA ノーザ
〒164-0011 東京都中野区中央1-21-4 ノーザビル　ノーザ　検索　https://www.nhosa.com
TEL 03-5348-1881（代）　FAX 03-5348-1885　E-mail:sales@nhosa.co.jp


株式会社ノーザは
全国13の支店で
お客様をサポート致します。
お近くの支店にお気軽にお問合せください。

- 北海道支店
- 茨城支店
- 埼玉支店
- 千葉支店
- 東京支店
- 神奈川支店
- 静岡支店
- 金沢支店
- 名古屋支店
- 大阪支店
- 神戸支店
- 広島支店
- 福岡支店

支店詳細は
こちらから
ご確認ください

20250826S

LOTTE

# 噛むこと研究室

## 噛むチカラを、みんなのチカラに。



ロッテは1948年の創業以来、ガムを作り続けてきました。
私たちはこれからも様々な研究機関や企業と連携し、
最適な“噛む”を提供することで、
みんなの力になりたいと考えています。


脳とこころ


からだの健康


お口の健康


子どもの発育


美容

噛むこと情報サイト
噛むこと研究室　https://www.lotte.co.jp/kamukoto/

ガムをかんだ後は紙に包んでくずかごへ。



NISHIKA

# お口の汚れを軟化させてからめとる。







無香料

● 薬用成分
・GK2※1［抗炎症成分］
・CPC※2［殺菌成分］

● うるおい成分
・アズレン※3
・ヒアルロン酸Na※4

● うるおい成分
・ヒアルロン酸Na

口腔ケア用ジェル 薬用
**お口を洗うジェルAZ** 医薬部外品
［内容量：希望小売価格］25g：770円（税別）／80g：1,700円（税別）
販売名：ニシカケアジェルAZ

関連製品

口腔ケア用ジェル
**お口を洗うジェル** 口腔化粧品
［内容量：希望小売価格］
25g：680円（税別）／80g：1,500円（税別）
販売名：ニシカケアジェルa

口腔ケア用汚染物回収ツール
**口腔ケア用吸引管** 管理医療機器
［包装・標準価格］20本入・2,900円(税別)
医療機器認証番号：303ADBZX00005000
一般的名称：歯科用吸引管

※1：グリチルリチン酸ジカリウム　※2：塩化セチルピリジニウム　※3：グアイアズレンスルホン酸ナトリウム　※4：ヒアルロン酸ナトリウム（2）

NISHIKA 日本歯科薬品株式会社
本社　山口県下関市竹崎町4-7-24 〒750-0025・営業所　大阪・東京・福岡
お問合せ・資料請求《お客様窓口》TEL 0120-8020-96
NISHIKAホームページ https://www.nishika.co.jp/▸▸▸

〈実行委員〉

| | | |
|---|---|---|
| 学会長 | 野坂 洋一郎 | 岩手医科大学名誉教授 |
| 副学会長 | 小豆嶋 正典 | 岩手医科大学名誉教授 |
| | 城　茂治 | 岩手医科大学名誉教授 |
| 実行委員長 | 守口　憲三 | 一般社団法人 日本訪問歯科協会 理事長　守口歯科クリニック 院長 |
| 実行委員 | 二木　由峰 | 一般社団法人 日本訪問歯科協会 中国ブロック長　医療法人社団峰良会 理事長 |
| | 近藤 公一郎 | 一般社団法人 日本訪問歯科協会 北日本ブロック長　近藤歯科医院 院長 |
| | 坂口　豊 | 一般社団法人 日本訪問歯科協会 関東ブロック長　坂口歯科医院 院長 |
| | 桐山　立志 | 一般社団法人 日本訪問歯科協会 中部ブロック長　医療法人桐華会 桐山歯科医院 理事長 |
| | 西村　有祐 | 一般社団法人 日本訪問歯科協会 関西ブロック長　医療法人祐愛会西村歯科 理事長 |
| | 今井　洋一 | 一般社団法人 日本訪問歯科協会 四国ブロック長　医療法人 いまい歯科医院 理事長 |
| | 青山　修 | 一般社団法人 日本訪問歯科協会 九州ブロック長　医療法人社団 秀歌会 青山歯科医院 理事長 |
| | 森川　真作 | 一般社団法人 日本訪問歯科協会 監事　医療法人真美会 森川歯科クリニック 院長 |

〈運営〉 一般社団法人 日本訪問歯科協会 事務局

一般社団法人
日本訪問歯科協会　事務局　〒101-0037 東京都千代田区神田西福田町４ ONEST 神田西福田町ビル8F　TEL 0120-299-505

# 第25回
# 日本訪問歯科医学会

訪問歯科 25年の歩みとこれからの一歩



©2025 一般社団法人 日本訪問歯科協会